

平成17・18年度

情報モラル  
研究委員会  
編集

ダウンロードして何度でも使えます！

指導案+ワークシート 13本

小 1本

中 6本

道徳、特別活動、技術・家庭科、総合的な学習の時間

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h18/jmoral/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/jmoral/index.htm)



# 道徳を通して培う 情報モラル

心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育

メールの誤解を解くとき、明日香の決断とは？  
人と人の温かいつながりを生んだ携帯電話  
届いた手紙で分かった友達の本当の気持ち



小学校道徳

中学校道徳



佐賀県教育センター

<http://www.saga-ed.jp/>

# 道徳を通して培う 情報モラル

心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育

「メールの誤解を解くとき、明日香の決断とは？」

「人と人との温かいつながりを生んだ携帯電話」

「届いた手紙で分かった友達の本当の気持ち」

「相手の姿が見えなくても大切にしたい心」

「善意のメール？ 善意を装ったメール？」

「あっという間に2億4414万625人?!」

「友達の行動を見て気付いた大切な心」

「気を付けよう！ 個人情報の流出」

「会って確かめたい友達の気持ち」



佐賀県教育センター

# 道徳を通して培う 情報モラル

もくじ

研究報告書・資料・指導案等は

こちらからダウンロードできます

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h18/jmoral/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/jmoral/index.htm)

佐賀県教育センターのトップページ

「授業に役立つ実践研究」からどうぞ

もくじ

	p.	
まえがき	1	心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育の在り方
研究のねらい	2	本研究における道徳の時間の位置付け 研究の目標 及び 研究の内容と方法
情報モラルと 道徳	3	情報モラルと関連のある道徳の内容項目
考察	5	道徳の時間の手立て 発達段階に応じた指導
実践事例	7	<b>小学校</b> 実践1 小学校3年 道徳……………「赤いお守り」 実践2 小学校3年 道徳……………「電話の向こうはどんな顔」 実践3 小学校4年 道徳……………「おせなかつたボタン」 実践4 小学校5年 道徳……………「拾われた手紙」 実践5 小学校5年 特別活動……………「ちょっとまって、そのメール出しているの！」 <b>中学校</b> 実践6 中学校1年 道徳……………「明日香の決断」 実践7 中学校1年 特別活動……………「情報を深く見る」 実践8 中学校1年 技術・家庭科…「情報モラルについて知ろう」 実践9 中学校3年 道徳……………「救われた気持ち」
指導資料	31	<b>小学校</b> 資料1 小学校6年 道徳……………「お祭りレポート」 資料2 小学校6年 総合的な学習の時間…「観光客に地域をアピール」 <b>中学校</b> 資料3 中学校2年 道徳……………「メールの友情」 資料4 中学校2年 特別活動……………「出会い系サイトの危険性」
子どもたちの 実態	36	<b>児童生徒の情報ツール使用に関する実態調査 及び 考察</b> 県内小学校児童3～6年生(1,011名)対象 県内中学校生徒1～3年生(1,128名)対象
あとがき	39	まとめにかえて

## 心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育の在り方

情報社会の進展は、私たちの生活に大きな変化をもたらしました。人々の生活の中に情報機器が深く入り込み、多様な情報通信ネットワークが社会を支え、これまでとは異なる様相を呈してきています。一方、子どもたちに目を向けると、コンピュータやインターネット、携帯電話等の情報ツールは手軽なコミュニケーション手段として低年齢層にまで普及し、一部では、チャットやメール、掲示板への書き込みなどコミュニケーションにおけるトラブルが増加傾向にあります。そして、それらのトラブルは、ネットワークマナーが身に付いていないことや情報モラルが問われる場面での判断力不足に起因するものが少なくありません。情報モラル教育については、文部科学省の情報教育の枠組みの中に「情報社会に参画する態度」として位置付けられていますが、子どもたちへの指導が情報化の進展に追いついておらず、対症療法的な指導で根本的な解決にはなっていないのが実情ではないでしょうか。

文部科学省では、情報モラルを「情報社会において、適正な活動を行うための基となる考え方と態度」と定義しています。そして、その教育の内容は、情報社会のルールやマナーを教えることに加え、道徳性を含めた人格の形成と深くかかわっているととらえることができます。21世紀を担う子どもたちにとって、情報ツールを豊かに活用しながら情報社会を生き抜く資質を身に付けることは不可欠なものです。これまで、一般的に行われてきているルールやマナーを重視した情報モラル教育では、確かにトラブル回避の知識や情報ツールの使い方は学ぶことができるでしょう。しかし、それだけでは情報ツールを豊かに活用できるとは限りません。子どもたちが、情報ツールの向こうには人がいるということを意識して、相手の立場に立ったコミュニケーションができるようになるために、道徳的な判断力や実践力の育成が必要であると考え、2か年の研究を進めてきました。

本報告書では、心豊かなコミュニケーション力をはぐくむ情報モラル教育について、小学校から中学校までの発達段階に応じた指導資料として具体的な授業実践事例、開発した道徳の教材等を提案しています。各学校における情報モラル教育に御活用いただければ幸いです。

最後に研究を進めるに当たって、大阪教育大学の金光靖樹先生をはじめ研究委員の方方並びに多くの学校や関係機関の御協力をいただきましたことに、改めて厚くお礼申し上げます。

平成19年3月

佐賀県教育センター所長 宮崎 正則

## 本研究における道徳の時間の位置付け

本研究では、各教科、特別活動並びに総合的な学習の時間等にルールやマナーの指導を行い、道徳の時間では心を耕す指導を行うというように役割を明確にしました。道徳でもルールやマナーに関することを考えますが、ここでは、「思いやり」「友情」等の内容項目を中心に実践しています。道徳の時間の後、子どもたちが自発的に「～していきたい」という気持ちになるような心情や意欲の高まりを考えています。

すなわち、心豊かなコミュニケーション力を育成する基盤となるように道徳の時間を位置付け、子どもたちが思いやりの心をもって前向きに情報ツールを使っていけるように心を耕すことをねらっています。

## 研究の目標 及び 研究の内容と方法

### 1 研究の目標

道徳の時間において、情報ツールを通した相手の立場に立ったコミュニケーション力をはぐくむことのできる教材開発及び指導の在り方を探る。

### 2 研究の内容

- (1) 情報モラルにかかわりのある道徳的価値の自覚を深めるための発達段階に応じた道徳教材を作成し、授業実践する。
- (2) 作成した教材を用いて授業実践を行い児童生徒の変容を分析することで、教材の有効性を検討する。
- (3) 心を耕すことを道徳で、ルールやマナーの指導を各教科等で授業実践し、道徳の時間の役割を明らかにする。

### 3 研究の方法

- (1) 研究対象  
小学校中学年・高学年及び中学校全学年
- (2) 研究期間  
平成17年4月～平成19年3月（2か年）
- (3) 研究組織
  - ① 理論研究  
教育センター所員（道徳・情報）
  - ② 授業実践・教材開発  
研究委員（小・中学校教諭）

## 情報モラルと関連のある道徳の内容項目

### 1 本研究で作成した指導資料について

情報教育は、情報活用能力の育成が目的であり小学校から高等学校まで系統的・体系的に実施するようになっていきます。そして、図1のように、情報活用能力は「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の3観点にまとめられており、情報モラルは、「情報社会に参画する態度」に位置付けられます。

	情報活用の実践力	情報の科学的理解	情報社会に参画する態度	
小学校	総合的な学習の時間での活用	各教科での活用		
中学校			技術・家庭「情報とコンピュータ」	社会
高等学校			数学など 普通教科 情報	公民

図1 情報教育の体系化イメージ

出典：高等学校学習指導要領解説 情報編 開隆堂 平成12年3月

その目標は、社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度を育てることにあります。

そこで、本研究委員会では、情報モラル実態調査の結果を踏まえて、情報社会に参画する態度の育成に力点を置き、表1のように授業実践を行うとともに指導資料を作成することにしました。

表1 授業実践及び作成した指導資料

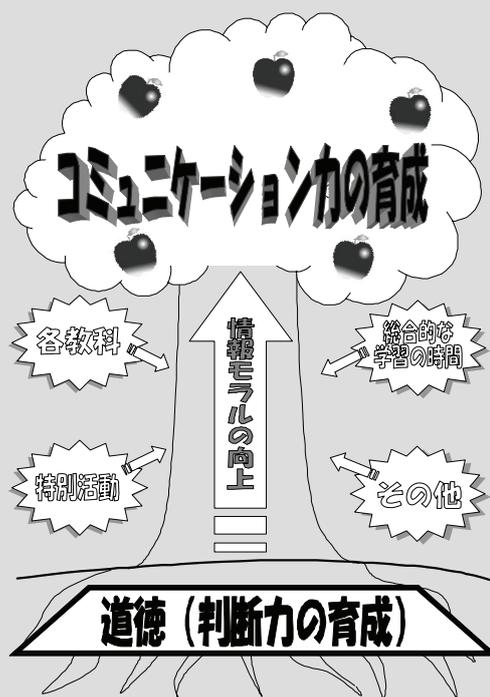
学年	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
教科・領域	道徳	道徳	道徳	(道徳)	道徳	(道徳)	道徳
	道徳		特活		特活	(特活)	
				(総合)	技・家		

( )は指導資料のみ作成

### 2 情報モラルと道徳の内容項目の関連について

授業実践に当たっては、表2のように指導したい情報モラルを抽出し、道徳の内容項目を関連付け、道徳の授業実践を行いました。その際、道徳において、心を耕すことに重点を置くために、ルールやマナーの指導は他教科で実践することで、情報モラルを確かなものとする必要があると考えました。したがって、道徳の授業実践に加えて道徳以外の授業実践も行い、指導資料を作成しました。

### コミュニケーション力育成のイメージ



道徳の時間は、「心豊かなコミュニケーション力を育成する基盤となる」という考え方です。

表2 指導したい情報モラルと関連のある道德の内容項目(例)

	前提となるスキル・経験	指導したい情報モラル	関連のある道德の内容項目	実践事例・指導資料	
小学校段階	手紙を書くことができる	・丁寧な文字で書く ・心を込めて書く	1-(1) 思慮・反省 2-(2) 思いやり 2-(3) 友情・信頼 2-(3) 助け合い	道德 実践1 p.9	
				道德 実践4 p.15	
	電話の対応ができる	・知らない人から電話があってもむやみに家族の名前や友達の名前、電話番号等を教えない	1-(1) 思慮・反省 2-(1) 礼儀	道德 実践2 p.11	
	マウスを使ってお絵かきができる	・友達のまねをしないで描く	1-(1) 思慮・反省 1-(5) 正直・誠実	道德 資料1 p.32	総合的な学習の時間 資料2 p.33
	コンピュータに文字入力ができる	・友達のまねをしない ・人のいやがることを入力しない	2-(3) 友情・信頼 4-(1) 公德心		
	デジタルカメラを使って撮影できる	・人の写真や人のもの等を撮影するときは、承諾を得る ・お店の品物や本の内容等は許可なく撮影しない	1-(5) 正直・誠実 2-(1) 礼儀 4-(1) 公德心		
	デジタルカメラで撮影した画像をコンピュータに取り入れることができる	・写真の取り扱いについて知る(インターネット上では特に注意すること等)	4-(1) 公德心		
ワープロソフトを使って新聞等を作成することができる	・友達の作文を載せるときは本人の承諾を得る ・友達の写真を載せるときは本人の承諾を得る ・友達の作品を尊重する ・著作物を載せるときは、出典を記す	1-(1) 思慮・反省 1-(5) 正直・誠実 2-(1) 礼儀 2-(2) 思いやり 2-(3) 友情・信頼 2-(4) 寛容・謙虚 4-(1) 規則の尊重			
インターネットに接続することができる	・接続の時間や約束を守る ・インターネット上の情報には正しくない情報もあることを知る ・インターネットの画像や情報を利用するときは十分に注意し、勝手に転用できないことを知る ・著作権について知る ・個人情報の流出のおそれがあること、それを防ぐ方法を知る ・インターネットウィルスについて知る ・掲示板に書き込むときのマナーを知る ・有料のゲームやサイトがあり、知らない間にアクセスしてしまう危険があることを知る ・ネットオークションやショッピングの危険性を知る ・ブログやホームページを開設するときの注意点を 知る	1-(1) 節度ある生活態度 1-(1) 思慮・反省 1-(5) 正直・誠実 2-(1) 礼儀 2-(2) 思いやり 4-(1) 公德心 4-(1) 規則の尊重	道德 実践3 p.13	特別活動 実践7 p.23	
プレゼンテーションを作成することができる	・情報発信者として責任をもつ	1-(3) 責任・自律			
中学校段階	インターネットメールを使ったことがある	・スパムメールに注意する(勧誘・アダルト等) ・ウィルスメールの危険性とその予防策を知る ・チェーンメールは回さない	1-(3) 責任・自律 2-(1) 礼儀 2-(2) 思いやり 4-(2) 法やきまりの遵守 4-(3) 公德心	道德 実践6 p.21	特別活動 実践5 p.17
	携帯電話を使ったことがある	・使用してはいけない場所(病院・飛行機等)を知る ・公共の場での使い方を知る ・チェーンメールは回さない ・カメラ機能で撮影するときの注意点(デジタルカメラと同じ)を知る ・インターネットに接続するときの注意点を 知る ・チャットメールをするときのマナーを知る ・使い過ぎると料金が超過することを 知る	1-(3) 責任・自律 2-(1) 礼儀 2-(2) 思いやり 2-(3) 友情・信頼 4-(2) 法やきまりの遵守 4-(3) 公德心	道德 実践9 p.27	技術・家庭科 実践8 p.25
	チャットをしたことがある	・特定できるような個人情報を教えない ・情報発信者として責任をもつ	1-(3) 責任・自律 2-(2) 思いやり 2-(3) 友情・信頼	道德 資料3 p.34	特別活動 資料4 p.35

# 道徳の時間の手立て・発達段階に応じた指導

## 1 道徳の時間の手立てについて

第1年次の研究では、道徳の時間に情報モラルの内容を直接扱ってしまうと、本来の道徳のねらいが達成できないのではないかという課題が残りました。それは、即時的な効果をねらい、道徳的判断力の育成とルールやマナーの指導の両方を同時に行おうとしたからだと考えました。

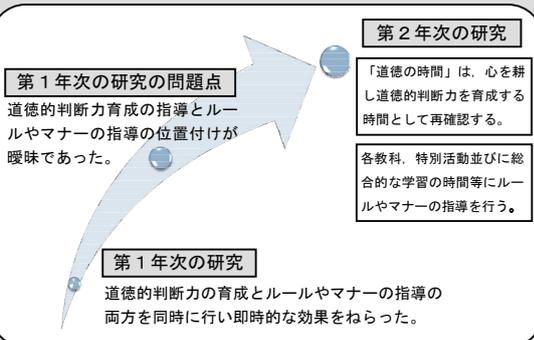
したがって、第2年次の研究では、道徳の時間は、あくまでもその時間の道徳のねらいを達成することを目的とし、その中でゆくゆくは情報モラルにつながる心情を高めるような発問を工夫することにしました。その際、中心発問に対して情報モラルにかかわる発問をどの程度の比重にするかは、児童生徒の実態から指導者が判断する必要があると考えます。

このような手立てを行うことで、本来の道徳の時間のねらいを達成しながらも、情報モラルを培う授業になったのではないかと考えています。

## 2 教材の有効性について

大阪教育大学の金光靖樹先生の指導により、ワークシートの記述を分類することで教材の有効性を検証しました。実践9の事例では、主題に即したねらいの評価で、おおむね良好な結果でした。また、情報モラルの授業として見た場合も全体の97%が達成しており良好な結果であったと判断しました。情報モラルのねらいに沿った発問や切り返しの発問があり、生徒はメディアを媒介とした間接的なコミュニケーションと対面コミュニケーションとの違いを感じることができていたと判断します。

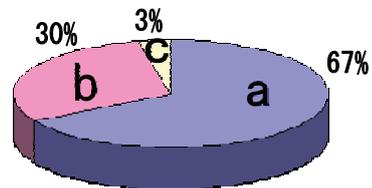
### 2か年の研究の流れ



**研究の第2年次は、研究の方向性をやや変更しました。**  
このことで、道徳の時間の位置付けが、より明確になりました。

### 教材の有効性の検証

情報モラルに関する評価  
(実践9より)



#### 97%の生徒がねらいに到達

- a: きちんとした理由付けがなされていて、コミュニケーションを取る手段としての携帯電話の特性を理解している。
- b: 理由付けはなされていないが、コミュニケーションの特性を理解している。
- c: 分類できない。

このグラフは、その時間のワークシートの記述を情報モラルのねらいに沿って分類した結果です。

97%の生徒が、携帯電話やコミュニケーションの特性を理解していることが分かります。



### 3 発達段階に応じた指導について

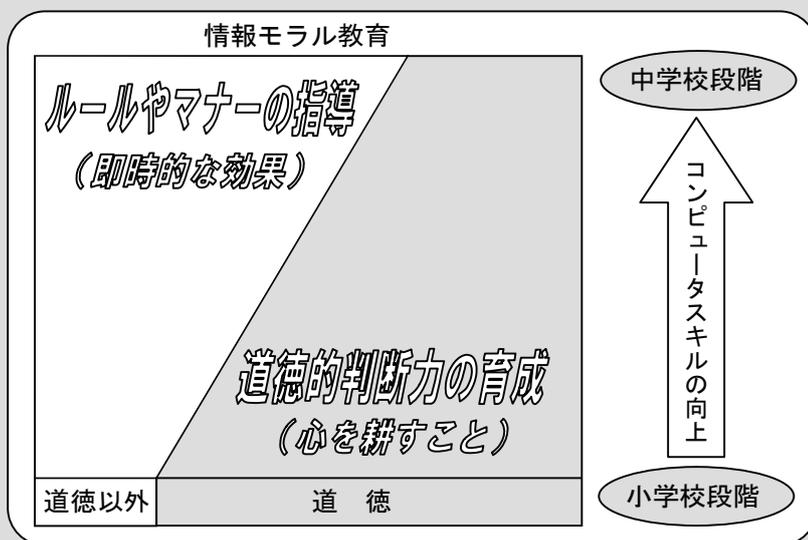
指導資料の作成に当たっては、学年が進むにつれてルールやマナーの指導時間を多くするというような考え方で進めました。

すなわち、小学校低・中学年段階では、道徳的判断力育成の基となる心を耕す時間が多くなり、小学校高学年・中学校段階ではコンピュータスキルの習得に合わせてルールやマナーの指導が増

えるという考え方になります。

ネットワークの向こう側にいる見えない相手を考える気持ちが、ゆくゆくは情報モラルにつながっていくということを考えると、小学校・中学校の発達段階に応じた指導資料を作成する必要があります。今後、更に実践を重ね、より充実した情報モラル教育を目指したいと考えています。

#### 発達段階に応じた指導のイメージ



指導資料の作成に当たっては、図のように学年が進むにつれてルールやマナーの指導時間を多くするような考え方で作成しています。小学校低・中学年段階では、道徳的判断力育成の基となる心を耕すことに重点を置く。そして、小学校高学年・中学校段階ではコンピュータスキルの習得に合わせてルールやマナーの指導が増えるという考え方になります。

ただし、ここでいうルールやマナーの指導は即時的な効果をねらったものです。道徳的判断力の育成については、継続的に指導していく必要があると思いますが、指導時間は限られています。だからこそ、ネットワークの向こう側にいる見えない相手を考える気持ちが、ゆくゆくは情報モラルの向上につながっていくという考え方で、小学校低・中学年のうちから将来を見据えた指導を行う必要があると考えます。

# 道徳を通して培う 情報モラル

実践事例

研究報告書・資料・指導案等はこちらからダウンロードできます。他の指導資料等もあります。

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h18/jmoral/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/jmoral/index.htm)

佐賀県教育センターのトップページ

「授業に役立つ実践研究」からどうぞ

## 実践1 届いた手紙で分かった友達の本当の気持ち

道徳

2- (3)  
友情・信頼  
助け合い

小学校3年

「赤いお守り」

出典「3年生のどうとく」(文溪堂)



手紙

手紙を取り扱った資料を用い、相手の気持ちや立場を思いやり、互いに信頼し助け合おうとする心情を養います。



p.9

## 実践2 相手の姿が見えなくても大切にしたい心

道徳

2- (1)  
礼儀

小学校3年

「電話の向こうはどんな顔」

出典「みんなの道徳3年」(学研)



電話

電話の応対について考えさせることで、姿は見えなくても相手の立場に立って接していこうとする心情を養います。



p.11

## 実践3 会って確かめたい友達の気持ち

道徳

2- (2)  
思いやり

小学校4年

「おせなかったボタン」



掲示板

体験を基に電子掲示板でのトラブルについて考えさせ、思いやりの心をもって接していこうとする心情を養います。



p.13

## 実践4 友達の行動を見て気付いた大切な心

道徳

1- (1)  
思慮・反省

小学校5年

「拾われた手紙」



手紙

手紙を取り扱った資料を用い、その場の感情に左右されず、よく考えて行動しようとする心情を養います。



p.15

実践5 あっという間に2億4414万625人?!

特別活動

小学校5年

「ちょっとまって、  
そのメール出しているの!」



チェーンメール

チェーンメールについて話し合い、問題点に気付かせることで、回ってきても自分のところで止める態度を育てます。



p.17

実践6 メール误解を解くとき、明日香の決断とは?

道徳

2-(1)  
礼儀・適切な言動

中学校1年

「明日香の決断」



携帯メール

携帯メールで友達に誤解された主人公の気持ちを考えさせることで、適切な言動をとろうとする態度を養います。



p.21

実践7 善意のメール? 善意を装ったメール?

特別活動

中学校1年

「情報を深く見る」



携帯メール

携帯メールについて話し合い、メディアの特性を理解させることで、情報を正しく見つめようとする態度を育てます。



p.23

実践8 気を付けよう! 個人情報の流出

技術・家庭科

中学校1年

「情報モラルについて知ろう」



情報流出

トラブルの疑似体験を通して、インターネットを利用する際の問題点に気付かせ、よりよく活用する態度を育てます。



p.25

実践9 人と人の温かいつながりを生んだ携帯電話

道徳

2-(2)  
感謝・思いやり

中学校3年

「救われた気持ち」



携帯電話

実話を基に、携帯電話に関係する人と人との温かいつながりについて考えさせることで、思いやりの心情を養います。



p.27

# 届いた手紙で分かった友達の本当の気持ち

本当の友情って何だろう？

ちょっとしたトラブルで口をきかなくなった千春と美雪  
一通の手紙が友達の気持ちを伝えてくれた

主題名 友達っていいな

資料名 「赤いお守り」

## ◆ねらいとする価値について

人は一人では生きていくことができない。様々な人とのかかわりの中で生活している。その中で、特に友達との信頼関係は、日常生活に潤いをもたせ、人としての喜びや活動へのエネルギーとなるものである。情報社会と言われる今、そのかかわりは、インターネットや携帯電話によるものが増えてきている。

友達との友情・信頼を深めるには、自己中心的な考え方や行動をせずに、相手を思いやり、助け合って共に向上しようとする気持ちや適切な判断力が大切であると言えよう。相手の立場に立って考え、友達のために思い、共により良く生きていこうとする心掛けの大切さに気付かせることは、大変意義深いことと考える。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査の結果、自分用または家族共用として携帯電話を使用している児童やメールを使用している児童が数名いることが分かった。そして、携帯電話に関しては約6割の児童が「自分用が欲しい。」と答えている。また、「友達に何かを伝えたいときにどうするか。」という問いには「家の電話を使う。」という児童が約4割いた。これから情報ツールを使用する機会が増えていくであろう児童には、ツールの向こうには人がいるということを意識した相手の立場に立ったコミュニケーションが必要である。この資料を通して、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さに気付かせ、適切な判断力をはぐくんでいきたいと考える。

## ◆本時の展開 ◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 期待される児童の姿
導入	1 友達と仲良くできなかったときの気持ちを想起する。	○ 友達と仲良くできないとき、どんな気持ちになりますか。 ・ いやだな。 ・ もう一緒に遊びたくない。	・ ねらいとする価値への方向付けとして、深入りせずに取り扱う。 ・ こんなとき、どんな心が大切かについて軽く触れる。
	2 資料「赤いお守り」を聴き、話し合う。 (1) 宿題を忘れたことに気付いたときの千春の気持ちを考える。 (2) 美雪に「見せないことにするわ」と言われたときの千春の気持ちを考える。	○ 宿題を忘れたことに気付いたとき、千春はどんなことを思ったでしょう。 ・ 困ったな、どうしよう。 ・ 美雪さんに見せてもらおうかな。 ○ 美雪に「今度は見せてあげないことにするわ。」と言われたとき、千春はどんなことを思ったでしょう。 ・ どうして見せてくれないの。 ・ もう、友達じゃない。	・ みんなからうらやましがられるほど、千春と美雪が仲良しであることを押さえた上で、千春の気持ちに自分の気持ちを重ねて聞くようにさせる。 ・ 千春の困っている気持ちと困ったときには仲良しの友達が助けてくれるという安易な依頼心をとらえさせる。 ・ 感情的になり、表面的な言動に腹を立てている千春の気持ちに十分共感させるために役割演技を行う。 「千春の気持ちに共感できる。」
展開	3 美雪から手紙をもらったときの千春の気持ちを考える。	◎ ☆美雪からの手紙を読んだとき、千春はどんな気持ちだったでしょう。 ・ 私のことを思ってくれていたんだ。 ・ 美雪さんこそ本当の友達だ。	・ 手紙を読んだ千春が美雪の心を知って感動していく姿をとらえさせ、その思いを記述させる。 ・ 千春のために思い宿題を見せなかった美雪の思いに気付かせる。 「美雪に心から感謝する千春の気持ちを感じ取ることができる。」
	4 手紙を書いているときの美雪の気持ちを考える。	☆ 美雪はどんなことを考えながら手紙を書いていたでしょう。 ・ 千春さんに気持ちが伝わるかな。 ・ 千春さん、がんばって。 ・ 千春さんは大事な友達だからね。	・ 口をきかない状況にありながらも、親友のために心を込めてお守りを作り手紙を書く美雪の気持ちを感じ取らせる。 ・ 直接話すのではなく手紙を使用した美雪の気持ちに触れておく。
終末	3 「心のおしり」に今日の学習で考えたことや学んだことを書く。	○ 今日の学習を通して考えたこと学んだことを書きましょう。 ・ ただ仲良く遊ぶだけでなく、その人のことを思って注意するのも大切。 ・ これからは、友達の気持ちを考えて行動できる人になりたい。	・ 今までとこれからの自分を見つめさせながら、1時間の学習を振り返らせ、自分の生活とのかかわりの中で、信頼・友情という価値をとらえさせる。 「これからどんな自分でありたいかを意識して書くことができる。」
	4 教師の話を書く。	○ 先生の話を書きましょう。	・ 信頼・友情、助け合いの大切さを知り、友達を思いお互いに助け合っていくとしようとする意欲を高める。

## ◆本時のねらい

友達の気持ちを感じ取り思いやる行為について話し合うことで、互いに信頼し合い、助け合っていくとしようとする心をはぐくむ。

### 情報モラルにかかわる場面

T 「美雪さんから手紙を読んだとき千春はどんな気持ちだったでしょう。」

C1 「心配してくれていたんだ。」

C2 「ごめんね。憎いなんて言って。」

T 「どうして、手紙をくれたのでしょ  
う。」

C3 「友達、親友だからです。」

C4 「言いづらかったと思います。」

T 「手紙って、直接顔を見ないから、  
しっかり書かないと伝わらないよね。」



(T：教師 C：児童)

### <資料について>

本資料では、宿題を忘れた千春が、仲良しの美雪に「見せて。」と頼むが、見せてくれず憎らしいと思う。しかし、後日送られてきた手紙を読むうちに美雪の友情を感じ取っていくという話である。「見せない。」と言った美雪の気持ちを考えさせていく中で、千春を思う美雪の思いを感じ取らせることができる。さらに、お守りを手にした千春の心情を考えさせることで、相手の気持ちや立場を思いやり、友達と助け合っていこうとする心情を養うことができる資料である。



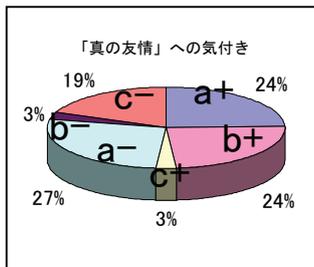
出典「3年生のどうとく」(文溪堂)

### ◆授業の評価と考察

今回の授業では、ワークシートへの記述を2回児童に課している。2回目の記述が友情観への気付きにかかわるものなので、それを基に分類した。

- a : 自分の経験と照らし合わせて考えているもの。
- b : 資料への共感・感想。
- c : 素朴な決意表明。

本来は、 $a > b > c$ と評価すべきであるが、記述前に、生活経験とつなげるような教示を行ったので、a, b, cそれぞれにおいて友情観の変化を示す語彙の有無(+, -)を評価基準として重ねた。



友情観の変化という視点で見ると、ほぼ半数の児童が、ねらいに到達していると言える。しかし、評価が-であったとしても、友情観の変化を経験しなかったのかどうかは、授業記録との対照や児童の性格や能力等を加味して見ていかなければならないと考える。

情報モラルを意識した発問に対する反応の中では、手紙の特質や他のコミュニケーション媒体に結び付けた発言は見られなかった。ただ、自分自身の経験を語る中で、電話で謝ったが今度は会って謝りたいという発言があり、これは情報ツールという媒体を介したコミュニケーションの特質への気付きにつながる要素をもっていると言える。

また、ワークシートの中で、仲直りの手段として手紙に言及している児童もおり、手紙の特質に気付いていく可能性もある。

今回、ロールプレイを取り入れた授業を行ったが、資料への共感という部分では、おおむね良好な結果だった。だが、情報モラルに視点をおいた場合、ロールプレイの中で、美雪の友情を感じ取ってしまい、資料後半で手紙とお守りを受け取る場面では、手紙の特質については思いが及ばなかったようであった。

(大阪教育大学 金光靖樹先生の評価より)

### ◆授業を終えて

今回の授業では、美雪が主人公の千春に手紙を渡す前の場面で「今度は宿題を見せない。」と言った気持ちをロールプレイを通して考えさせた。そうすることで、中心発問において2人のやり取りの中で相手の気持ちを感じ取ることができ、それが情報ツールを使用する場合の相手の立場に立ったコミュニケーション力にもつながると考えたからである。実際にロールプレイの段階で、千春が美雪の気持ちを感じ取ることができたため、手紙そのものの有り難さが薄れてしまったようである。

そこで、指導案を再検討し、中心発問に情報モラルにかかわる発問を重ねた。「美雪からの手紙を読んだとき、千春はどんな気持ちだったでしょう。」と問うことで、道德のねらいを達成するとともに手紙の特質についても気付くことができるであろうと考える。

# 相手の姿が見えなくても大切にしたい心

陽一が漫画を読みふけっている最中に電話が掛かってきたすぐにお母さんに取り次いでみたが、陽一は漫画に夢中さで、電話の向こうは…？

主題名 姿が見えない相手への礼儀

資料名 「電話の向こうはどんな顔」

## ◆ねらいとする価値について

相手の立場に立ち、心のこもった接し方を心掛けることは、社会生活を営む上でこの上なく大切である。

従来、日本人は礼儀を重んじ、様々な場面において、そのよさを伝統化してきた。しかし、近年は、礼儀のすばらしさや伝統をおろそかにする風潮が多々見受けられる。

礼儀を重んじるということは、相手を重んじることであり、礼儀を大切にすることで、相手の立場に立つ温かい態度が生まれるということである。たとえ相手の姿が見えなくても、人と接するときには相手の立場に立つ謙虚さをもつべきである。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査の結果、携帯電話を自分用、または、家族と共用している児童は全体の約30%近くを占めていることが分かった。また、メールなどを日常で使用している児童も12%ほどおり、いずれにしても相手の姿が見えないコミュニケーションを経験している児童がいる。反面、「友達に何かを伝えたいときどうしますか。」という問いに対しては、「直接話す。」の項目を選んだ児童が多かった。この資料に登場する情報伝達手段は家庭用電話であるが、小学校3年生であれば、十分身近な存在と言えるので、姿が見えない相手への礼儀について身に付けておく必要がある。

## ◆本時のねらい

相手の姿が見えなくても、人と接するときには謙虚な心で相手の立場に立ち、心のこもった接し方が大切であることに気付かせる。

## ◆本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点「理解させる原質の姿」
導入	1 身近な礼儀について考える。	○ 礼儀正しい態度とは、例えばどんなことを指すだろう。 ・ あいさつがきちんとできる。 ・ 丁寧な言葉遣いができる。 ・ 礼がしっかりできる。	・ 目の前に相手があるときの礼儀が挙げられると予想されるので、深くは追求しない。 「様々な礼儀の在り方について考えることができる。」
	2 資料を読む。		
	3 電話に集中していない陽一の気持ちに共感する。	○ 受話器を肩に掛け、漫画を読んでいるときの陽一君はどんな気持ちだろう。 ・ 早く集中して読みたい。 ・ めんどうだな。 ・ 早くお母さんが来ないかな。	・ 陽一の電話の応対における問題点を押さえておく。 「主人公の心情と自分の心情を重ねて考えることができる。」
	4 岩井さんの立場に立つて考える。	○ 電話の向こうで、岩井さんはどんなことを思っているだろう。 ・ ずいぶん遅いわね。 ・ 失礼だなあ。 ・ 何かあったのかしら。	・ 電話なので岩井さんの顔は見えないことを確認する。 ・ 児童に役割演技をさせることで、岩井さんがどのような気持ちであったかを考えさせる（陽一役は教師が演じる）。
展開	5 姿が見えない相手への礼儀について考える。	◎ ☆ 「岩井さんは、受話器の向こうでどんな顔をなさっていたでしょうね。」というお母さんの言葉を聞いた陽一君は、どんなことを考えたでしょう。「礼儀」をキーワードにしてメッセージを書いてみよう。 ・ 漫画に集中しすぎた。 ・ きちんと取り次げれば良かった。 ・ 岩井さんに申し訳ない。	・ 書く活動後、姿が見えない相手への礼儀に関する記述があれば紹介する。 ・ 姿が見えない相手への礼儀に対して、児童の考え方は様々であると考えられるので、教師が補助発問により整理する。 「姿が見えない相手への礼儀について考えることができる。」 「電話を使うときのマナーについて考えることができる。」
	6 教師の説話を聞く。	○ 「嬉しかったメール」の話を読みます。 ユニセフに募金したときに、募金先の相手から手厚いお礼のメールが届いた話。	・ 思いがけずお礼のメールを受け取った嬉しさを話すことで、相手の立場に立ち、心のこもった接し方が大切であることに気付かせる。

## 情報モラルにかかわる場面

C1 「漫画を読みたい気持ちは分かるけど、電話が掛かってきたら、漫画を置いて、受話器をきちんと手に取って話した方がいい。」

T 「陽一君の行動は岩井さんに見えているのかな。」

C2 「見えていません。」

T 「見えていないだろう。そしたらいいんじゃないかな。」

C3 「だめです。いけないと思います。」

C4 「見えていないけど、漫画を読んで長く待たせてしまった。」



(T：教師 C：児童)

## <資料について>

本資料は、電話での応対における礼儀の在り方をテーマとした読み物資料である。主人公の陽一が漫画の本を読んでいるところに母親の友人から電話が掛かってくる。受話器を取った陽一は、台所にいる母親に取り次いだが、呼び声が届いていない上に漫画に夢中になってしまう。しばらくしてはっとした陽一は、あわてて母親を呼びに行くが、戻ってきたときには受話器は床に落ち、相手に不愉快な思いをさせてしまう。相手の姿が見えなくても、人と接するときには相手の立場に立つ謙虚さと、心を込めて接する礼儀の大切さに気付くことができる資料である。

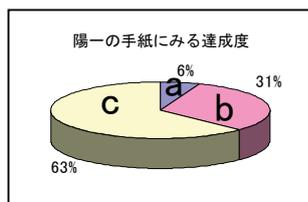
出典「みんなで考えるどうとく3年」（日本標準）

## ◆授業の評価と考察

板書

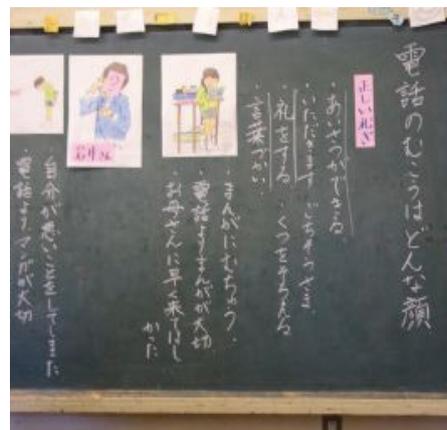
中心発問について、ワークシートに記述させた。中心発問は、陽一がどんな礼儀を大切にしなければいけなかったのかを、自分から陽一へメッセージにして書くという設定だった。ねらいは、姿が見えない相手にでも心のこもった接し方の大切さを分からせるものだったが、3年生では目の前にあること以外で推測させることはなかなか難しかった。基準をどうするか判断は難しいが、ねらいに対して以下のように評価基準を設定した。

- a：相手が見えないからこそ、きちんとしなければいけない。
- b：相手の気持ちを考えて、きちんとしなければいけない。
- c：陽一はこうすべきだったという表面的な行動を表す。

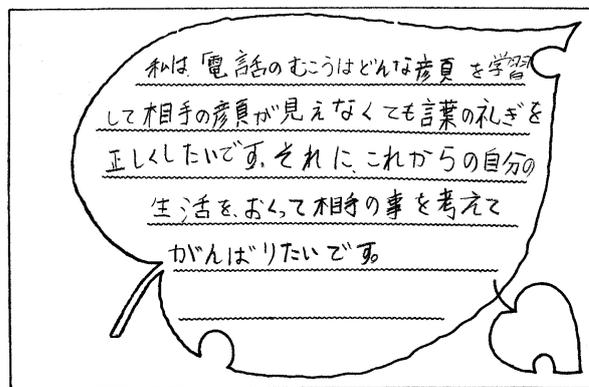


ねらいの達成度は、 $a > b > c$  と評価するのが適当であると考え、37%の児童がねらいを達成していると言える。

(大阪教育大学 金光靖樹先生の評価より)



児童のワークシート



## ◆授業を終えて

今回は「相手の姿が見えなくても大切にしたい礼儀」について授業を行った。児童は、自分たちが知っている様々な礼儀の在り方から本時のねらいについて考えることができた。児童が出した正しいと思われる電話の応対の仕方を教師が補助発問で整理することで、中心発問では、児童は「相手のことを考える」という礼儀の根本的な部分に注目することができた。

情報教育の視点で考えると、小学3年生にとって姿の見えない相手との伝達手段としては、電話がいちばん身近な存在であると言える。この資料は、児童から電話での応対の体験やそのときの思いなどを引き出しやすいので、コミュニケーションをはぐくむ情報モラル教育に有効であると考えられる。

# 会って確かめたい友達の気持ち

本当に悪口を言われているのかな？  
たかこに悪口を言われたと聞いたあさみ  
掲示板に悪口を書いて送信しようとするが…

主題名 ことばの大切さ

資料名 「おせなかったボタン」

## ◆ねらいとする価値について

インターネットや携帯電話の急激な普及に伴って、児童生徒が事件を起こしたり、事件に巻き込まれたりする事例が増加してきた。情報ツールを使ったコミュニケーションでは、匿名性が高いことが要因の一つとして考えられる。また、情報の「影の部分」についての指導が十分になされてこなかったことも背景の一つに挙げられる。児童がより良い人間関係を築いていくためには、時と場をわきまえた適切な言動や相手の立場に立った思いやりの心が大切であると考える。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査によると80%以上の児童の家庭にコンピュータがあり、その半数がインターネットに接続できる環境にあることが分かった。家庭における児童の情報ツールの使用率は、10%程度にとどまっているものの、今後、使用率は増加することが予想される。この資料では、衝動的な主人公の言動が、情報ツールによる広範囲の伝播性から、いかに責任の重いものかをとらえさせるようにする。そして、生活していく中で、相手の立場に立った言動やコミュニケーションの大切さを考えさせるようにしたい。

## ◆本時の展開 ◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 悪口の経験を想起する。	○ 悪口を言われたり、言ったりした経験がありますか。	・ 悪口に関するアンケートの結果を提示し、価値への方向付けをする。
	2 資料「おせなかったボタン」について話し合う。	○ 主人公あさみさんの気持ちを考えながら聞きましょう。	・ 資料は、あさみの心情を考えさせるため、読み聞かせをしながら、途中に発問を入れて提示していく。
展開	(1) 掲示板に書き込みをしているときのあさみの気持ちを考える。	○ あさみさんが、近ごろ掲示板に凝っているのはどうしてでしょう。 ・ 楽しいから。 ・ アニメとパソコンが好きだから。 ・ すぐに返事が来るから。	・ 事前の掲示板の体験活動を想起させ、メールのやり取りなどの楽しかったことや情報ツールが便利な道具であることをとらえさせる。
	(2) かなえからたかこが悪口を言っているとき聞いたときの気持ちを考える。	○ かなえさんからたかこさんが悪口を言っていることを聞いたとき、あさみさんは、どんなことを考えたでしょう。 ・ 信じられない。 ・ 仲が良いのに、どうして。 ・ 私が何かしたのかな。	・ 仲の良いたかこから悪口を言われ、あさみの信じられないという思いをとらえさせる。 ・ はっきりとたかこに聞きたいが、怖くて聞けない気持ちをあさみの言動を手掛かりにして考えさせる。
	(3) たかこへの悪口を書き込んだ画面を見たときのあさみの気持ちを考える。	◎ ☆自分が書き込んだ掲示板を見て、あさみさんがはっとしたのはどうしてでしょう。 ・ もし、これをたかこさんが見たら悲しむ。 ・ 自分がされたらいやだろうなあ。 ・ 確かめもしないでひどいことを書いてしまった。	・ たかこのところに自分の名前を入れて読んでみることで、悪口を書き込まれたときの気持ちを考えさせる。 ・ あさみの葛藤する心情に気付かせ、どのように解決していったら良いか考えさせる。 ・ 掲示板に書き込むことで、たかこの人の目に触れる可能性のあることをとらえさせる。
終末	3 自己の生活を振り返る。	○ 友達から悪口を言われたとき、どんな気持ちでしたか。	・ 悪口を言われた人の気持ちを考えさせ、相手の立場に立った言動を心掛けることの大切さに気付かせる。
	4 教師の説話を聞く。		・ 掲示板やメールなどのプラス面やマイナス面の話をし、相手のことを考えて、普段からコミュニケーションを行おうとする心情を高める。

## ◆本時のねらい

あさみが掲示板に書き込みをしようとしてやめる心の動きを考えることで、思いやりの心を持ち、相手の立場に立って接しようとする態度を育てる。

## 情報モラルにかかわる場面

- T 「自分が書き込んだ掲示板を見て、あさみさんがはっとしたのはどうしてでしょう。」
- C1 「ずっと友達だったから、こんなことはしてはいけないと思ってはっとした。」
- C2 「こんなこと書いちゃいけないし、たかこさんが悲しみます。」
- T 「相手の人が悲しむってことだね。」
- C3 「何でこんなことを書いたのだろうと思ってはっとした。」



(T：教師 C：児童)

### <資料について>

本資料のあさみは、アニメとコンピュータが大好きな4年生の女の子である。ある日友達から、仲の良いたかこが、自分の悪口を言っていたと教えられる。思い悩みながらも、なかなかたかこに理由を聞くことができない。その後、衝動的に掲示板にたかこへの悪口を書き込んでしまう。自分が書いた悪口を見直して、自己の行為を省みるという内容である。

インターネットの掲示板を取り扱った資料であるため、今回は、事前に掲示板の体験を取り入れることで、場面や人物の気持ちをより理解しやすいように配慮した。



(自作資料)

### ◆授業の様子



事前アンケートによると、クラスの70%以上の児童が悪口を言ったり、言われたりしていやな思いをしていた。児童は主人公と自分を重ねて、これまでの生活体験と結び付けて考えることができた。情報ツールを使用する場合でも、相手の立場に立ったコミュニケーションを心掛ける態度を育てたいと思いながら授業を進めた。

### ◆授業を終えて

情報モラルを道徳で取り扱った先行実践が少なかったため、今回は資料を自作して授業を行った。資料の作成は難しく、終末の部分は研究委員会での意見を参考にし、明るい未来を感じさせる表現を取り入れた。

授業では、今までの生活体験を踏まえ、児童は真剣に考えることができた。特に、中心発問に対しては、相手のことを思いやることの大切さを感じていたので良かったと思う。しかし、価値の一般化のところでは、掲示板や携帯のメールの使い方に集約してしまった。もっと生活の場面の中でのいろいろなコミュニケーションの方法に発展するような発問にすれば、より道徳のねらいに迫ることができたのではないかと思う。

ここ数年、情報モラルの授業は、数多く行われるようになってきたが、道徳的判断力を育成していく上で、このような道徳での実践の必要性は、ますます高くなっていくと考える。

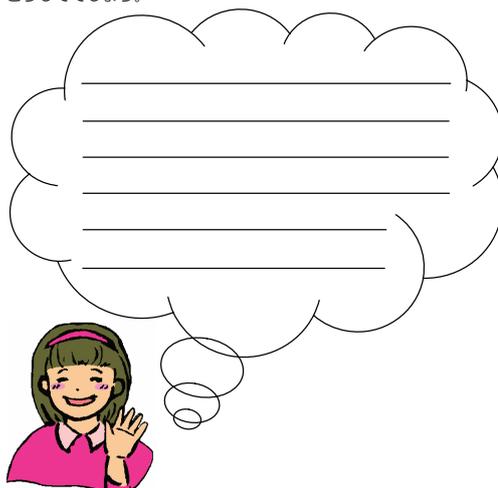
ワークシート

道徳ワークシート

『おせなかったボタン』

名前 ( )

○ 自分が書きこんだけいじ板を見て、あさみさんがはっとしたのはどうしてでしょう。



# 友達の行動を見て気付いた大切な心

悪口を書いた手紙を捨てたときも  
じっと見つめた後、そっとくずかごに捨てる  
手紙を書いたさちえは、自分のことが恥ずかしくなった

主題名 自己を省みる

資料名「拾われた手紙」

## ◆ねらいとする価値について

自分を客観的に見つめ、内省することは、自己の確立にとって不可欠な要素である。しかしながら、人は自己保身的な考えにとらわれ、自己の過ちや失敗を他の責任にすることもある。高学年では、自己を認識する能力が向上してきて、その力が、徐々に生活の中に反映され、主体性のある自己が形成されていく。その過程において、自分を振り返り、よく考えて行動する態度をはぐくむこと、過ちを犯していたと気付けば素直に改める態度を身に付けさせることは、大変意義深いと考える。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査によると、友達に何か伝えたいことがあるときにメモ程度の手紙を使うという児童が45%いた。女子児童に限ると80%を超えている。児童のメモ程度の手紙のやり取りは、将来的に匿名性の高いインターネット掲示板やブログ、携帯メールなどのやり取りにつながっていくことが想定される。そこで、この時間では、メモ程度の手紙について考えていくことで、匿名性の高い状況になった場合の道徳的判断力をはぐくみたい。

## ◆本時の展開 ◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 手紙をやり取りした経験を想起する。	○ 友達に手紙を書いた経験がありますか。	・ 手紙に関するアンケートの結果を提示し、価値への方向付けをする。
	2 資料「拾われた手紙」について話し合う。  (1) ひろ子に怒られているときのさちえの気持ちを考える。	○ 主人公さちえさんの気持ちを考えながら聞きましょう。  ○ 仕事を忘れ、ひろ子さんに注意をされているとき、さちえさんは、どんな気持ちだったでしょう。 ・ 仕事を忘れて悪かった。 ・ 今度から忘れられないようにしよう。 ・ そんなにおこらなくて。	・ 資料は、分断提示で読み聞かせる。(再現構成法的に)  ・ 図書委員会の仕事を忘れてのはいけなかったというさちえの気持ちをとらえさせるとともに、きつい注意をされて腹が立っているさちえの気持ちにも共感させる。
展開	(2) 手紙をともきに拾われたときのさちえの気持ちを考える。	☆ ともきに手紙を拾われたさちえさんは、どんなことを考えたでしょう。 ・ みんなに見せられる。 ・ 誰が書いたか分からない。 ・ ひろ子さんが悪いんだ。 ・ 先生に言い付けられる。 ・ 書かなければ良かった。	・ みんなに見せられると困るさちえの気持ちや、匿名だからそれでもいいと思う複雑な気持ちをとらえさせる。 ・ ひろ子さんが悪いんだと自己を正当化するさちえの気持ちもとらえさせたい。
	(3) ともきが手紙をくずかごに捨てるのを見たときのさちえの気持ちを考える。	◎ ともきが手紙を捨てるのを見て、さちえさんは、どんな気持ちになったでしょう。 ・ あんな手紙を書いて悪かった。 ・ あんな手紙は書かないようにしよう。	・ よく考えないで悪口の手紙を書いたことを内省しているさちえの気持ちをとらえさせる。 ・ ともきがひろ子の気持ちをよく考えていることもとらえさせる。
終末	3 自己の生活を振り返る。	○ これまでによく考えないで行動をした経験はありませんか。	・ よく考えないで行動をしたとき、後でどんな気持ちになったのか考えさせる。
	4 教師の話を聞く。	○ 先生もメールで苦い経験をしたことがあります。	・ 気分が流されず、よく考えて相手に思いを伝えることの大切さを感じ取らせたい。

主人公さちえの気持ちを通して、その場の感情に左右されず、よく考えて行動しようとする心情を育てる。

## 情報モラルにかかわる場面

- T 「ともき君が手紙を捨てるのを見て、さちえさんはどんな気持ちになったでしょう。」
- C1 「ともき君が捨ててくれて、書いた悪口が見つからなくてよかった。」
- C2 「小さくたたんで捨ててくれた。自分が恥ずかしい。」
- T 「恥ずかしい理由は何かな。」
- C3 「あのとき、謝っていれば良かった。ひどい手紙を書いて恥ずかしい。」
- C4 「ともき君はひろこさんに見せると悲しむと思って捨ててくれたのかな。ありがとう、ともき君。これでまた、ひろこさんと仲良くなる。」



(T：教師 C：児童)

### <資料について>

本資料は、図書委員会の仕事を忘れた主人公さちえが、ひろ子の厳しい叱責に腹を立て、衝動的に書いた悪口の手紙をともきに拾われるという内容である。拾った手紙をじっと見つめた後、小さく折りたたんで、人目に触れないようにくずかごの奥に捨てたともきの行動は、さちえの内省を促す。

さちえの気持ちを通して、その場の感情に左右されず、よく考えて行動しようとする心情を育てることができる資料である。



(自作資料)

### ◆授業の様子



メモや手紙を書いて友達に渡した経験がある児童はクラスの約半数おり、児童は自分たちに近い問題として真剣に考えることができた。

授業を進めるに当たっては、匿名の手紙のマイナス面について気付かせることで、情報モラルを培いながら、道徳のねらいに迫るようにした。

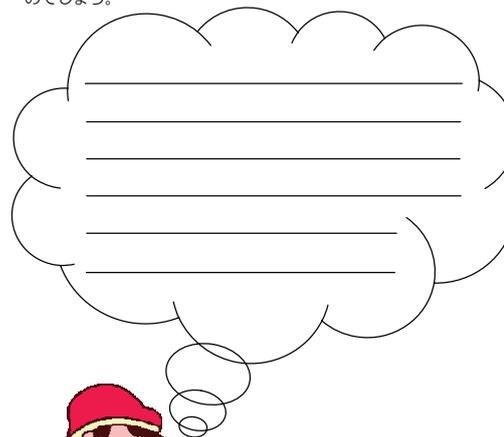
ワークシート

道徳ワークシート

『拾われた手紙』

名前 ( )

○ ともきが手紙を捨てるのを見て、さちえは、どんな気持ちになったのでしょうか。



### ◆授業を終えて

情報モラル教育の視点から、児童のメモ程度の手紙に友達とのコミュニケーションを求める姿が、将来的にはインターネット掲示板やブログ、携帯メールなどのやり取りにつながっていくと考えた。

授業の導入では、児童がアンケートの結果を見ることによってメモ程度の手紙と情報ツールを同時に意識できるようにさせた。展開では、ともきの感情に左右されない冷静な行動が、ひろこのみならずさちえを救ったことを考えさせることで、匿名の手紙の無責任さや、よく考えて行動することの大切さをつかませた。

児童は、やがて携帯電話等の情報ツールを利用することになるであろう。あふれる情報の中でも、冷静な判断力を持ち、情報を自分の生活に役立ててほしいと考える。

# あっという間に2億4414万625人?!

「友達に回してください」っていう  
メールが来たよ  
本当に回してしまったらどうなるの?

題材名 「ちょっとまって、そのメール出していいの!」

## ◆題材について

うわさが広がるのは早いと言われるが、インターネットや携帯電話のメール機能を使えば、伝播力はその比ではない。チェーンメールもその一つである。チェーンメールのほとんどは偽情報であることが多い。不幸系は、いたずらに恐怖心をあおり、幸福系や善意系であったとしても偽情報であれば、不特定多数の人に迷惑をかけるだけでなく、インターネットのトラフィック（流通する情報量）を増大させ、ひいてはサーバーをダウンさせることにもなりかねない。

情報ツールを使ったコミュニケーションでは、匿名性が高いことから、安易に情報を発信してしまいがちである。情報の真偽を判断し、偽りの情報を流さない態度の育成は非常に重要である。

## ◆本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	1 前時のメールのやり取りの経験を想起させ、本時のめあてを確認する。  「ちょっとまって、そのメール出していいの!」送信する前に考えよう。	・ メール機能のよさを確認する。また、体験の中で相手に不快な思いをさせたメールを想起させ、メールの書き方を確認し本時のめあてにつなげる。
活動の展開	2 不幸系のメールを見て話し合う。	・ 自分だったら、届いたメールを次の人に回すか、回さないか判断させ、その理由も考えさせる。
	3 芸能系のメールを見て話し合う。	・ 問題点と改善策をグループで話し合った後、全体で話し合うようにする。
	4 チェーンメールを回してしまったらどんなことが起こるか話し合う。 ＜チェックリスト＞ ① ほかにの人に転送することが書いてある。 ② 「ウイルス情報です。」のようにうそを書いてある。 ③ テレビの人気番組の企画どうそをついている。 ④ 「出さないと不幸になる。」というような書き方をしている。	・ プレゼンテーションを使用し、すごい速さで、メールが増殖したり、サーバーがダウンしたりすることを理解させる。 ・ チェーンメールかどうかのチェック項目を指導する。
5 チェーンメール（幸福系・善意系）に関するクイズをする。	・ たとえ、幸福系・善意系であっても、チェックリストを参考にし、チェーンメールであれば、送信してはいけないことを理解させる。 ■ チェーンメールの問題点に気づき、回ってきても自分のところで止める判断力と態度を養うことができたか。	
活動のまとめ	6 教師の説話を聞く。	・ メール・カウンセリングの話をし、メールの使いかた次第で、たくさんの人役に立つことを知らせ、マナーを守ってメールを書くことへの意欲付けとする。 ・ マナーの確認をし、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを押さえ、日ごろの生活に生かすようにさせる。 ■ 相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解し、生活の中で生かすように意欲を高めることができたか。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査では、ほとんどの児童が不幸系のチェーンメールを「無視する。」「他の人に相談する。」と答えているのに対して、幸福系のチェーンメールでは23%の児童が「メールを送る。」と回答している。

今回の授業では、事前にメールをやり取りする体験を行い、その楽しさや、利便性について十分感じ取らせ、その際、相手の立場に立ってメールを書くことについても指導を行う。その後、チェーンメールについての問題点を話し合い、メールの連鎖を止める勇気を高めていきたい。

## ◆本時のねらい

チェーンメールの問題点に気づき、回ってきても自分のところで止める判断力と態度を養う。

## 情報モラルにかかわる場面

T 「こんなメールが来たら回すという方に丸を付けた人。」（5～6人が挙手）

T 「理由を聞いてみましょうか。」

C1 「自分もいじめられるかもしれないからです。」

C2 「もしも回さなかったらその人がいじめられるからです。」

T 「では、自分は回さないという人。」

C2 「回すと他の人まで巻き込むことになるから回さない方がいいです。」

C3 「実際にいじめられることはないと思います。」

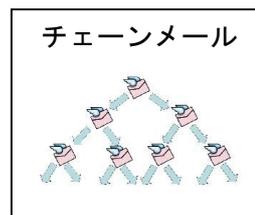


（T：教師 C：児童）

## <資料について>

情報モラルの問われる場面を設定するために、チェーンメールを題材としたプレゼンテーションを作成した。はじめに芸能系と不幸系の2通のメールを見て、その問題点を話し合い、チェーンメールの見分け方を学ぶ。その後、クイズ形式で、幸福系と善意系のメールを見て考えることで、チェーンメールの問題点についての理解を深めることをねらっている。

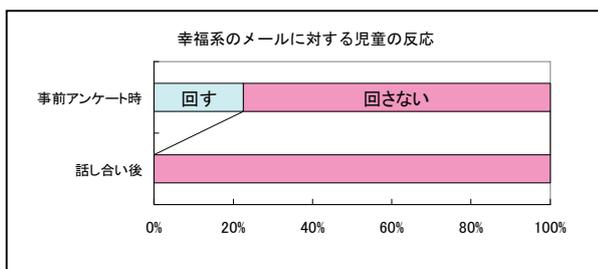
また、チェーンメールが回っていくとどのようなことが起こるかということを具体的な数字で示したり、もらった相手の気持ちを考えさせたりすることで、自分は回さないという態度を育てる内容である。



(自作資料)

## ◆授業の評価と考察

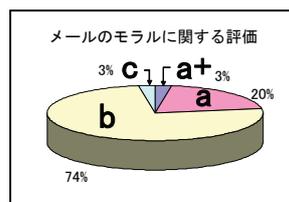
学級の約4分の1の児童が幸福系のメールを回すと答えていたが、チェーンメールについての問題点を話し合った後には、幸福系のメールであっても回さないと全員が答えていた(下図)。話し合いや、チェーンメールチェックリストが有効だったということが言える。しかし、児童の良心に訴えるような善意系のメールには、話し合い後であっても4人の児童が回すと答えていた。それについては、回さないと答えた児童が、「緊急のときにはテレビ等でも流れるはず。」と述べた意見を聞いて、複数のメディアで確かめることの大切さを学んだようだ。



コンピュータ室での授業も考えられたが、教室で行ったことで、体験よりも話し合い活動が活発になり児童の理解も深まったと考える。

授業後、チェーンメールの理解に加えて、コミュニケーションについても考えているかということも含めて、ワークシートを分類した。分類の柱は下記の通りである。

- a+ : チェーンメールの問題点が分かった上で、直接コミュニケーションのことまで言及している。
- a : メールをもらった相手の立場を考えている。
- b : チェーンメールの問題点が分かっている。
- c : 感想のみを記述している。



97%の児童がねらいに到達していると言える。そのうちの23%の児童は情報の真偽を判断することの大切さだけでなく、メールを書く前に相手の気持ちを考えるということまで言及していた。

## ◆授業を終えて

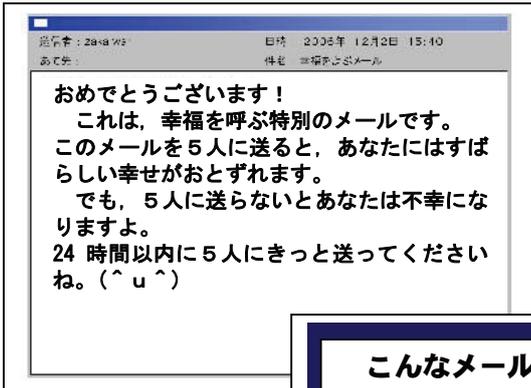
授業を振り返ってみると、児童の発言の鋭さに驚かされた。裏を返せば、情報ツールの普及に伴い、家族が携帯電話やインターネットを使用しているのを見たり、テレビ等のメディアから情報を得たりすることで、児童は間接的に多くのことを経験しているということであろう。今回は、5年生で「チェーンメール」についての授業を行ったが、このような授業は5年生であっても十分に実践可能であり、情報に対する見方も養うことができる可能性も感じる事ができた。

現在の情報ツールを使った様々な犯罪の発生状況を見ると、情報モラル教育の必要性を強く感じている。情報が氾濫する現代を生きていく子どもたちが、情報を正しく判断できるような能力を身に付け、情報ツールをより良く活用してくれることを願っている。

本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	<p>1 前時のメールのやり取りの経験を想起させ、本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール機能のよさを確認する。また、体験の中で相手に不快な思いをさせたメールを想起させ、メールの書き方を確認し本時のめあてにつなげる。</li> </ul>
活動の展開	<p>2 不幸系のメールを見て話し合う。</p> <p>3 芸能系のメールを見て話し合う。</p> <p>4 チェーンメールを回してしまったらどんなことが起こるか話し合う。</p> <div data-bbox="220 943 794 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;チェックリスト&gt;</p> <p>① ほかにの人に転送することが書いてある。</p> <p>② 「ウイルス情報です。」のようにうそを書いてある。</p> <p>③ テレビの人気番組の企画だとうそをついている。</p> <p>④ 「出さないと不幸になる。」というような書き方をしている。</p> </div> <p>5 チェーンメール（幸福形・善意系）に関するクイズをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分だったら、届いたメールを次の人に回すか、回さないか判断させ、その理由も考えさせる。</li> <li>問題点と改善策をグループで話し合った後、全体で話し合うようにする。</li> <li>プレゼンテーションを使用し、すごい速さで、メールが増殖したり、サーバーがダウンしたりすることを理解させる。</li> <li>チェーンメールかどうかのチェック項目を指導する。</li> </ul> <p>■ チェーンメールの問題点に気づき、回ってきても自分のところで止める判断力と態度を養うことができたか。</p>
活動のまとめ	<p>6 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メール・カウンセリングの話をし、メールの使い方次第で、たくさんの人の役に立つことを知らせ、マナーを守ってメールを書くことへの意欲付けとする。</li> <li>マナーの確認をし、相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを押さえ、日ごろの生活に生かすようにさせる。</li> </ul> <p>■ 相手の立場に立ったコミュニケーションの大切さを理解し、生活の中で生かすように意欲を高めることができたか。</p>



授業で使った  
プレゼンテーションの一部

**こんなメールが来ました。  
あなたなら、どうしますか？**

- \* まわす
- \* まわさない

**《それは、なぜですか？》**

本当にメールを回してしまったら、どうなるだろう？	
1時間後	⇒ 5人
2時間後	⇒ 25人
3時間後	⇒ 125人
<b>12時間後 → 2億4414万625人</b>	
6時間後	⇒ 1万5625人
7時間後	⇒ 7万8125人
8時間後	⇒ 39万625人
9時間後	⇒ 195万3125人

教師の説話

**メールカウンセリングの話**

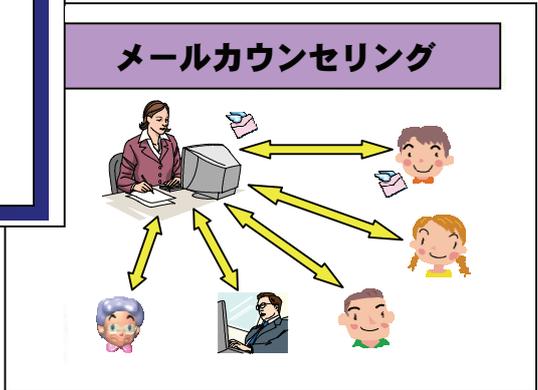
アメリカのある少女ジュリーは悩みを聞いてくれるローズさんと一週間おきにメールを交換しています。ある日、何気なくテレビを見てみると、メールカウンセリングでカウンセラーをしている人が番組で紹介されていました。その人は、病気で入院している八十七歳のおばあさんでした。

彼女はパソコンを使ってゆつくりと悩み相談のメールに返事を書いているのだそうです。そのおばあさんの名前が紹介されたとき、ジュリーは驚きました。それは、ジュリーが悩みを相談している相手、ローズさんだったからです。ジュリーは携帯電話からメールを送っていました。

ジュリーは、自分自身を励ましてくれた人が病院のベッドで寝ているおばあさんだったということを知り、とても大きな励ましをもらったような気がしました。

「と大きな瞳のローズさんは、にっこりと微笑み幸せに満ちた表情で話してくれました。」

ジュリーは、自分自身を励ましてくれた人が病院のベッドで寝ているおばあさんだったということを知り、とても大きな励ましをもらったような気がしました。



ワークシート

**ちょっとまって、そのメール出していいの！**

年 組 \_\_\_\_\_

- あなたに1番目のメールが来たら、どうしますか。  
・まわす                      ・まわさない  
その理由は何ですか。
- 2番目のメールが来たら、どうしますか。  
・まわす                      ・まわさない  
その理由は何ですか。
- これらのメールの問題点は何だと思えますか。また、どうしたらいいと思えますか。  
《どんなところがよくないか》                      《こんなメールが来たらどうするか》
- メールクイズ  
クイズ① ・まわす   ・まわさない                      クイズ② ・まわす   ・まわさない  
その理由は何ですか。  
《メールクイズ①》                      《メールクイズ②》
- 今日の学習で学んだことを書きましょう。

# メールの誤解を解くとき、明日香の決断とは？

1日に何通ものメールのやり取りをする中学生の明日香  
いつものように何気なく送信してしまった携帯電話の  
メールによって、友達に誤解されてしまう・・・

主題名 礼儀・適切な言動

資料名 「明日香の決断」

## ◆ねらいとする価値について

携帯電話やコンピュータなど便利な情報ツールの登場で、生徒たちを取り巻く社会環境や生活様式、コミュニケーションの方法が変化してきている。そのため、情報ツールを使ったコミュニケーションを取る場合の道徳的判断力、情報モラルが求められている。

メールのやり取りにおいては、言葉の受け取り方の違いによって誤解が生じる場合があり、相手の立場に立ったコミュニケーションを取る必要がある。

そこで、メールでのコミュニケーションにおいても相手を思いやる心が大切であることに気付かせるとともに、適切な礼儀について考えさせたい。

## ◆情報モラル教育の視点

学級のほとんどの生徒が携帯電話を使用した経験があり、携帯電話でのメールも半数の生徒が経験しているという実態がある。よって、本資料のようなメールでの誤解の経験は身近なことと考えられる。メールは文章による伝達手段のため、対面コミュニケーションと違い、相手がどのように受け取っているかは分かりづらい。メールでの誤解が元で人間関係が崩れることもある。相手の顔や表情が見えないからこそ気を付けたい礼儀や言葉の大切さを考えさせたい。

## ◆本時のねらい

メールのやり取りをする場面においても忘れてはならない適切な行動があることを知り、話す言葉や文字による言葉を選ぶときにも、相手を思いやる心が大切であることを感じ取らせる。

## ◆本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点
導入	1 携帯電話に関する実態調査の結果を見る。	○ この学級の携帯電話に関する実態調査の結果を見てください。	・ 携帯電話を所有してなくても、「欲しい」と思っている人が多くいるということを知ること、将来コミュニケーションツールとして携帯電話を使う可能性が高いことを予感させる。
	2 資料「明日香の決断」の教師の範読を聞く。		・ 明日香の気持ちを考えながら聞かせる。 ・ プレゼンテーションソフトを使用して、携帯電話のメールを表示することで、資料の内容をつかませる。
展開	(1) メールを使っているときに起こる明日香の心情を考える。	○ 明日香が悪い言葉でメールを打つようになって、「大したことではない」と思うようになったのは、なぜでしょう。 ・ そういう性格だから。 ・ 話すときに気を付けられたいと思っていたから。	・ 起こっているトラブルがメールの特性と関係していることに気付かせる。
	(2) 何気なく送ったメールによって、誤解されて困っている明日香の気持ちを考える。	○ メールの中で嘘が隠れているという話を聞いて、明日香が「なぜ」という言葉を何度も心の中で繰り返したのは、どうしてでしょう。 ・ メールをただ送っただけなのに誤解されたから。 ・ 仲が良い友達なのに誤解されたから。 ・ 自分が伝えたかったことが伝わらず、誤解されたから。	・ 何気なく送ったメールが原因で、明日香と嘘の間に誤解が生じていることを押さえない。 ・ 明日香の気持ちを考えさせることで、メールによって、自分の言いたいことが言えなかったこと、伝わりにくかったということに気付かせる。
	(3) 嘘に与えてしまった誤解をどうやって解くべきか決断した明日香の気持ちを考える。	◎ ☆明日香は「よし、そうしよう。」と言った後に、どんな行動をとったのでしょうか。 ・ 嘘にメールを打ち直した ・ 嘘に電話した ・ 翌日、朝一番に直接会って話して、謝った。	・ メールでのコミュニケーションが中心となっていた明日香がメールでは伝えにくい感情の壁にぶつかって、何が一番良い選択かを考える気持ちを感じ取らせたい。 ・ 自分で考えた後で、グループを作り誰が何が一番良い選択かを考えさせる。
終末	3 自己を見つめる。	○ 人とコミュニケーションをするときに大切なことは何かということについて、今日の話をかき出すことを書いてみましょう。	
	4 心のノートを読む。	○ 心のノートを読みましょう。	・ コミュニケーションでは、単に言葉だけのやり取りではなく、相手を思いやる心が大切であるということの心のノートを読むことで、感じ取らせる。

## 情報モラルにかかわる場面

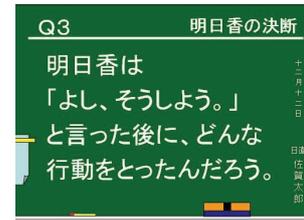
T 「明日香は『よし、そうしよう』と言った後にどんな行動をとったのでしょうか。」  
S1 「メールを使わないで、電話で謝った。」  
S2 「直接会って謝って、悪い言葉を使わないように気を付けながら気持ちを伝えようとした。」  
S3 「メールではうまく伝わらないので、電話して誤解だということを知ってもらって説明した。」  
S4 「その日のうちに電話で謝って、次の日、直接会って謝る。」



### <資料について>

本資料「明日香の決断」は、携帯電話に夢中になっている中学校1年生の明日香が、友達に何気なく送ったメールの内容が誤解されその解決のためにどうすれば良いのか悩む話である。塾の帰りの連絡用として携帯電話を購入してもらったはずが、いつしかメールにのめり込み、メールで使用する言葉にも荒さが目立つようになる。

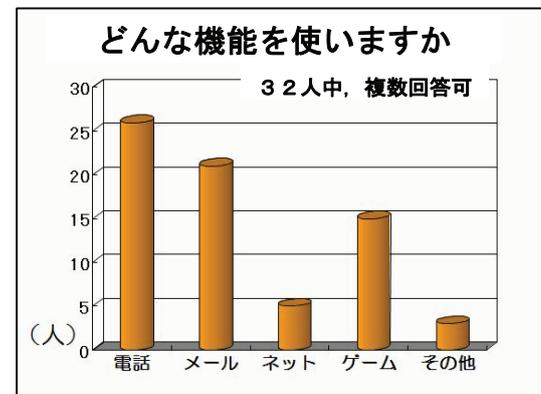
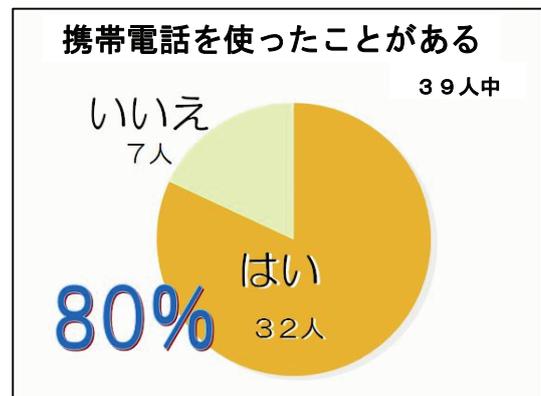
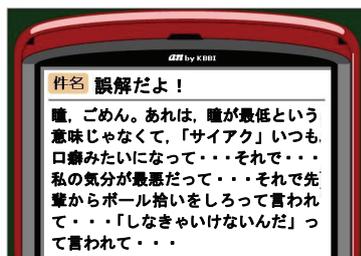
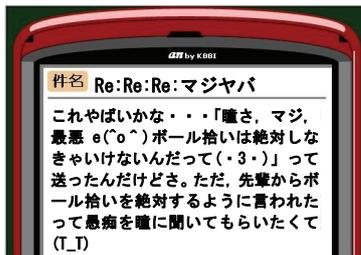
そして、自分が伝えなかったことがメールで伝わらず、友達に誤解を与えてしまったことにとまどいを感じ、メールでの伝達に限界があることを感じていくという内容である。



(自作資料)



授業で使った  
プレゼンテーションの一部



### ◆授業を終えて

この授業では、携帯電話を使ってメールのやり取りをしたときに、言葉の受け取り方の違いによって誤解が生じ、友達関係にひびが入るとい、今後起こる可能性のあることを題材として取り上げた。「メールに頼りすぎず、実際に人と会って言葉を交わすようにしたい。」というような生徒の反応を期待していたが、「今後はあまりメールをしないようにする。」という反応が多かった。

今回の授業のように、道徳的判断力の育成とルールやマナーの指導を同時に取り扱うことは、難しいということを感じた。例えば、道徳ではメールのよさやメールを使うことによって生まれた心温まる話で心情を高め、危険性や適切な使用方法については学級活動等で指導する方が良いように思った。

# 善意のメール？ 善意を装ったメール？

知らない人から来るメール  
何だかおもしろそうな内容なんだけど…  
情報を正しく見つめるってどんなこと？

題材名 「情報を深く見る」

## ◆題材について

携帯電話、コンピュータ、インターネットなど情報ツールの進歩はめざましく、現代社会はまさしく情報が氾濫していると言える。また、それらの情報は有益なものばかりではなく、無益・有害なものも増えてきており、それらが引き起こす混乱や事件も後を絶たず、むしろ増加の一途をたどっている。特に、ダイレクトメールや迷惑メールに代表されるように、情報を入力する意志をもたなくても、様々な情報が身の回りに置かれているような状態である。このような現代社会を生きる子どもたちは、社会に氾濫する情報を正しく見極める力が必要となってくると考え、この題材を設定した。

## ◆情報モラル教育の視点

まず、同じビデオ映像のBGMを変えて視聴しその差異をとらえさせることで、メディアの特性を理解させる。次に、数種類の携帯メールの分類を通して、それらの情報が何を伝えようとしているのかを考えさせ、情報の本質を見抜くことの大切さに気付かせる。指導に当たっては、友達と話し合わせ、様々な考え方に気付かせるとともに、情報を正しく判断していこうとする態度をはぐくみたい。

## ◆本時のねらい

友達と話し合うことで、自分の意見をより深めさせるとともにメディアの特性を理解し、情報を正しく見つめようとする態度を育てる。

## ◆本時の展開

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	1 情報ソースについて考える。	・ 情報を伝えてくれるものにはどんなものがあるのか考えさせ、様々なメディアがあることに気付かせる。
	2 メディアの特性を考える。	・ 同じニュース映像のBGMを変えて視聴させることで、メディアというのは、編集の仕方によって、受ける印象も異なる場合があることを理解させる。その上で、どんな内容なのかをより深く読みとろうとすることが大切であることを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">情報の正しい見方について考えよう。</div> ■ 映像を比較しながら、その違いを探し出そうとしているか。
活動の展開	3 メールについて考える。	
	(1) 文字情報の特性を考える。	・ 携帯メールの文字情報だけを讀ませることで、人それぞれ受け取り方が違い、誤解を与える場合があることも理解させる。
	(2) メールについて個人で考える。	・ 11種類のチェーンメールを「危険なメール」「注意すべきメール」「安全なメール」に分類させることを通して、情報を深く読み取ろうとする態度を養う。
	(3) メールについてグループで考える。	・ メールを分類をグループで話し合う際に、分類した理由も述べるようにさせる。 ・ 友達の見解を聞くことで、自分とは違った考え方や見方があることに気付かせる。また、話し合ってから分類を再考していく中で、判断するポイントについても考えさせるようにする。
	(4) グループごとに発表し、みんなで話し合う。	・ 各グループが分類した理由を聞くことで、メールの内容を吟味する態度を養う。 ・ 十分、生徒から意見を聞いた後で答えを発表し、それぞれどのようなポイントでメールを判断していくのかも合わせて紹介する。
(5) メール正しい見方を知る。	・ チェーンメールの危険性、メールの特性などを伝え、対処法を学ばせる。 ・ 答え合わせよりも間違いに気付くことができたということが大切であり、自分たちにはまだ知らないことが多いということを自覚させる。 ■ 自分の意見と、友達の見解を比較しながら聞き、自分の考えを深めることができたか。	
活動のまとめ	4 教師の話聞く。	・ 情報を見分ける力のことを「メディア・リテラシー」ということを示し、今後の生活の中での意識を高めるよう助言する。 ・ 心のノート「コミュニケーションは心のキャッチボール」を読む。
	5 自己を見つめる。	・ 今日の学習で、自分が気付いたこと、学んだことを書かせることで、今後の生活に生かすようにさせる。 ■ 情報はいろいろなところから発信されていて、それらの情報の中身について、正しく判断することが大切だと分かる。

## 情報モラルにかかわる場面

- T 「白血病の友人を助けるという、このメールはどこがいけないのでしょうか。」
- S 「メールを流してくださいのところです。」
- T 「そう、できるだけ多くの人に流してくださいのところだね。助けてあげたいと思った人。」(生徒の手が挙がる)
- T 「そうだよね。だけど、こんなときは新聞やテレビなど、他のメディアで確認しよう。」



(T：教師 S：生徒)

### <資料について>

今後、コミュニケーションの手段の一つとして携帯電話を用いることが十分に予測されることから、今回は全て安全とは限らない架空の携帯メールを作成した。それらは、言葉巧みに個人情報を読み出すものやホームページのアドレスを今すぐクリックするように書いてあるもの、善意を装ったもの等である。

これらのメールを「危険なメール」「注意すべきメール」「安全なメール」に分類することを通して、情報を正しく見つめようとする態度を育てることができる。  
(自作資料)

SUB: 無料ゲーム

無料ゲーム公開!みなさまのおかげで、誰でも無料でゲームができるサイトが誕生しました。今すぐに次のアドレスにGO!  
無料なので安心して下さい!最新ゲームから懐かしのゲームまで合計500ゲーム以上!!  
完全無料「ゲーム天国」:  
<http://tengoku.game.com>

### ◆授業の評価と考察

今回の授業では、最初に 11 種類のメールの分類を個人で行わせた。それは、一人一人にしっかりと自分の考えをもたせたかったからである。その後、小グループで分類した理由などを話し合いながら、グループとしての意見をまとめさせた。その結果、「英文のメール」や「当選メール」を「危険なメール」に分類しているグループがある反面、ボランティアや命にかかわる等の「協力お願いメール」を「安全なメール」に分類しているグループも多く、情報を見分ける力を育成する必要性が改めて感じられた。

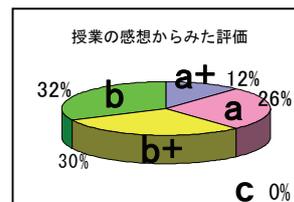
情報モラルに関する評価については、授業のまとめで課した「今日の学習で気付いたこと」の記述において、メディアの特性を理解し、情報を正しく見つめようとしているかどうかで分類した。そこで、分類の柱を下記のように設定した。

- a+ : 今後の自分の具体的な行動に言及している。
- a : 具体的ではないが、今後の行動に言及している。
- b+ : メディアの特性を理解し、情報を正しく見つめている。
- b : 情報の中には正しくない情報があることが分かる。
- c : 怖いなどの感情だけを書いている。

安全なメール



全て安全とは限らない、11種類のうち8種類のメールが安全なメールに分類されていた。生徒は、善意を装ったメールや同年代を装ったメールにはだまされやすいということが分かる。



最初は安全なメールに分類していた生徒たちも、情報の中には正しくないものがあることを理解できていた。

### ◆授業を終えて

携帯電話やメールの使用については、その使用を禁止するという対症療法的な指導ではなく、いろいろな角度からの指導が必要であろう。メール依存にならないための指導、悪質迷惑メール・チェーンメールへの対処法、メールのより良い利用方法などの授業が行われるべきだと考える。授業をしたその日の学活ノートのコメント欄には「自分が知らないことがたくさんあって、今日の授業でとてもよく分かった。」や「知らないままメールをしていたことが怖いと思った。」など知らなかったことに気付いた記述があり、今回のような授業の必要性を感じた。今後は、携帯電話を所持していない生徒やメールをしたことがない生徒に対しても分かるような授業の工夫を今以上にしていきたいと考えている。

# 気を付けよう！ 個人情報の流出

最近の高機能の携帯電話

写真も撮られて音楽も聴けてインターネットもできる便利だけど、危険なこともあるの？

題材名 「情報モラルについて知ろう」

## ◆題材について

授業でインターネット等を活用することは、生徒自身の学習に対する興味・関心・意欲を喚起し、自発的な学習を促進させ、共同学習やコミュニケーション活動の増大による学びの広がりをもたらすなどの大きな効果が期待できる。また、家庭においても多くの生徒がインターネットや携帯電話を利用して、情報を収集・処理・発信する時代が到来している。

このような状況の中で、特にインターネットや携帯電話でのメール送受信におけるプライバシーの侵害や個人情報の流出等のトラブルが増加している。また、有害サイトへのアクセスによる不当請求の被害者も未成年者が多くなってきている。そこで、大量の情報があふれる中で中学生として、情報の見極めや情報の収集・処理・発信についてのルールやマナーを習得する必要があると考えた。

## ◆情報モラル教育の視点

情報モラルに関する実態調査から見ると、家庭にコンピュータがあると答えた生徒は65%で、そのうちの80%がインターネットを使用できるという結果が出た。学校においても情報を収集するためにインターネットを利用する機会が増えてきている。インターネットと言えば、以前はコンピュータに代表されたが、今では、携帯電話やゲーム機器等でアクセスができる環境になり、生徒のすぐそばにインターネットの世界が広がりつつある。生徒たちもいずれは携帯電話を持つようになることが予想され、その利便性だけでなく、インターネットの危険性も知り、より良く活用する態度を育成することが大切である。

## ◆本時のねらい

携帯電話でインターネットを利用するときの問題点に気付かせ、トラブルなどに巻き込まれないようにする態度を身に付けさせる。

## ◆本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
導入	1 前時のインターネットを利用するときのルールやマナーについて想起し、本時のめあてを確認する。	・ インターネットは、いろいろな情報を得ることができ、有効に使うと便利であるが、その反面、トラブルに巻き込まれる恐れがあることを確認する。
	携帯電話を利用するときのルールやマナーについて学ぼう。	
展開	2 携帯電話に関する現状を知る。	・ 携帯電話で何ができるかを尋ね、考えさせる。そして、情報モラルに関するアンケートの結果をプレゼンテーションで示し、現状を知らせる。
	3 携帯電話を利用するときのルールやマナーに関するクイズについて考える。	・ プレゼンテーションでクイズを出題する。また、解答を教えないことで意欲を喚起する。
	4 インターネットを利用し、携帯電話のルールやマナーについてのシミュレーションを行いながら、情報モラルについて考える。	・ デジタルコンテンツ  「情報モラル研修教材2006」 <a href="http://swb.nctd.go.jp/kyouzai_new/taiken/kinou/index04.htm">http://swb.nctd.go.jp/kyouzai_new/taiken/kinou/index04.htm</a>
	5 携帯電話を利用するときの問題点について話し合う。	・ 個人情報の流出などの問題点を挙げさせ、どのような危険性があるかを発表させる。
まとめ	6 携帯電話を利用するときのルールやマナーに関するクイズについてもう一度考える。	・ 最初に提示したクイズをみんなで解っていくことで、情報モラルについて正しく理解させる。  ■ 携帯電話を利用するときの問題点に気付き、自分がトラブルに巻き込まれないようにするための判断力と態度を養うことができたか。
	7 自己評価をする。	・ インターネットや携帯電話でメール等を行うときには、相手が見えないという特性があることを知らせる。
	8 教師の話聞く。	・ いろいろなトラブルに巻き込まれないようにするために、今後もルールやマナーを守り、インターネットや携帯電話を適切に利用することを理解させる。

## 情報モラルにかかわる場面

T 「実際にシミュレーションを体験してみて、携帯電話を利用するときどんな問題点がありましたか。」

S1 「知らない人からメールが来ることもあります。」

T 「どうして知らない人からメールが来るのかな。メールのアドレスは教えていないのに。」

S2 「でも、勝手に来ます。」

S3 「なぜアドレスを知っているのか不思議です。」

T 「そうだね。シミュレーションで体験して…」



## <資料について>

「情報モラル研修教材 2005」は、独立行政法人教員研修センターが作成した情報モラル研修のためのデジタルコンテンツである。

このコンテンツは、携帯電話を使ってインターネットに接続する際に巻き込まれやすいトラブルを疑似体験することでその危険性を知り、携帯電話の使い方について考えることのできる教材である。

情報モラル研修教材 2005 [http://web.nctd.go.jp/kyouzai\\_new/index.htm](http://web.nctd.go.jp/kyouzai_new/index.htm)



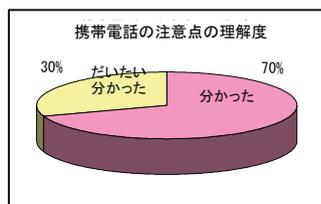
## ◆授業の評価と考察

今回の授業では、疑似体験を十分に行わせるためにコンピュータ室で授業を行った。二人一組で指定したサイトのコンテンツを自由に体験させ、ワークシートにまとめさせていった。

自己評価によると、体験を重視したことと、その後、クイズ形式で確認を行ったことで、携帯電話でインターネットを利用する際の注意点についてはほとんどの生徒が理解できていた(下図)。



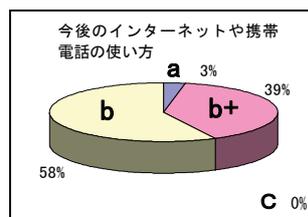
今後は、体験をさせる前に、トラブルへの対処法等を予想させたり、話し合いの時間を確保



したりすることで、理解も深まっていくのではないかと思われる。

情報モラルに関する評価については、授業の終末で課した「これからのインターネットや携帯電話の使い方」の記述において、危険性を認識しているかどうかで分類した。分類の柱は下記のように設定した。

- a : コミュニケーションの仕方にまで言及している。
- b+ : 具体的に、個人情報を出さないことに言及している。
- b : 携帯電話でインターネットをする際の問題点や、個人情報保護の意識に言及している。
- c : 授業の感想だけを記述している。



携帯電話を持つようになったら、むやみにアドレスや電話番号を教えないということや、分からないときには両親に相談するなどの記述が見られ、今回の授業が情報モラルを考える契機になったと言える。

## ◆授業を終えて

実態調査で、多くの生徒がインターネットを利用できる環境にあることが分かり、自ら加害者や被害者にならないようにするためにも情報モラルについての学習が早急に必要であった。そこで、疑似体験を通して、情報ツールを利用するときのルールやマナーについて考えることのできるような授業を設定した。

授業を振り返ってみると、最後のまとめのところでは、もっと生徒同士の意見交換などを行わせその中の意見を活用し情報モラルについてまとめさせると良かったように思う。また、使用した教材のコンテンツ数が豊富であるため、体験する内容を実態に合わせて厳選し、焦点を絞って活動をさせた方が良かったように思った。

生徒たちが、これからの情報社会の中で、将来に不安を抱くことなく、夢をもち、心豊かな生活を送ることを期待している。

# 人と人との温かいつながりを生んだ携帯電話

2005年4月に起こったJR福知山線脱線事故  
事故直後の混乱の中、そばに落ちていた携帯電話が  
人と人との温かいつながりを感じさせてくれた

主題名 思いやりの心

資料名 「救われた気持ち」

## ◆ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領の上では、主として他の人とのかかわりに関することの項目に位置付けられ、「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し感謝と思いやりの心をもつ。」ことを具体的な内容としている。

近年、インターネットや携帯電話が著しく発達し、情報伝達の様相が大きく変わろうとしている。伝えたいことを伝えたいときに相手に自由に伝達できる利便性の中で、ややもすると、情報のみに目が向けられ、使い手である人への関心が薄れがちである。

情報ツールを使う上で、送受信者はもとより、それにかかわる多くの人の存在があることを意識させ、人と人との温かいつながりのすばらしさを考えさせたい。

## ◆情報モラル教育の視点

中学校卒業後、生徒は様々な進路に進み、今までとは違った世界で生活をするようになる。携帯電話の所持率も上がり、積極的に新しい人間関係を築いていこうとする。互いに面識がないまま情報ツールで結び付いた友達同士も珍しくはない。そのような状況を前にした3年生のこの時期に、人間関係を広げていくだけではなく、人と人との個々のつながりのすばらしさを再認識し、大切にしていける心情を育てていく必要がある。

## ◆本時のねらい

人と人とのつながりの大切さを理解することで、相手を思いやったコミュニケーションを取ろうとする心情を育てる。

## ◆本時の展開

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 期待される生徒の姿
展 開	1 資料に関する話を聞く。	○ 「救われた気持ち」という資料を用いて、人と人とのつながりについて考えてみたいと思います。	・ JR福知山線脱線事故の概要を説明し事故当日の状況を思い起こさせる。
	2 資料「救われた気持ち」について考える。 (1) 携帯電話の「母さん」という表示を見たときの阪本さんの気持ちを考える。 (2) 母親から携帯電話を使うことを勧められたときの阪本さんの気持ちを考える。	○ 「母さん」の表示を見たとき、阪本さんは、どんなことを思っただろう。 ・ 持ち主の母親が心配している。 ・ 事情を説明しなければ。 ○ 「どうぞ、お使いください。」と言われたとき、阪本さんは、どんなことを思っただろう。 ・ 勝手に使って申し訳なかった。 ・ 息子を案じる母親に早く返してあげなければいけない。	・ 資料は読み聞かせを行い途中で発問を行う。 ・ 母親が息子の安否を気遣っていることに気付き電話に出ようとした気持ちを考えさせる。 「親の気持ちに触れ、電話に出る決心をした阪本さんに共感することができる。」 ・ 息子の安否を気遣いながら阪本さんへ優しい心配りをみせる母親の思いに気付いたときの気持ちを考えさせる。 「人の優しさに触れた阪本さんの思いを感じ取ることができる。」
	(3) 母親に会いに行くときの阪本さんの気持ちを考える。	☆ 母親に会いに行くとき、阪本さんはどんなことを思っただろう。 ・ 相手の目の前でお礼を言いたい。 ・ 直接会った方が伝わりやすい。	・ 直接会うことでしか伝わらないものがあることを感じ取らせる。 ・ 携帯電話を使った間接的なコミュニケーションと対面コミュニケーションとの違いに気付かせる。 「会って話したいと思われた阪本さんに共感することができる。」
	(4) 人と人をつなぐ結びつけるものが何であるかを考える。	◎ 阪本さんと青年が再会できたのはどうしてだろう。 ・ 阪本さんと母親の気持ちが通じたから。 ・ 2人が相手のことを考えた行動をとったから。	・ 母親、阪本さんの互いに相手を思う気持ちが2人を再会させたことに気付かせる。 「人と人が出会い互いに思いやることのすばらしさを感じ取ることができる。」
終 末	3 阪本さんのインタビュー映像を見る。		・ 相手のことを考えることの大切さを感じ取らせる。

## 情報モラルにかかわる場面

- T 「杖をつきながら移動しないといけな  
いという状況の中、直接お母さんにお  
礼を言いに行かれた。そのとき阪本さ  
んはどんなことを思っただろう。」  
S 「自分の命を救ってくれた携帯電話の  
持ち主にしっかりとお礼を言わなけれ  
ばいけないと思ったと思います。」  
T 「電話とかではだめなの。どうして。」  
S 「心が伝わらないからです。」



(T：教師 S：生徒)

### <資料について>

「救われた気持ち」は、ピアニストの阪本朋子さんが遭遇したJR福知山線の脱線事故について授業者本人が直接インタビューした内容を資料化したものである。

阪本さんは、事故直後、自分のそばに落ちていた携帯電話をやむなく使う。その電話に息子を案じた母親からの電話が掛かってくる。阪本さんが電話に出ることで新たな人間関係が生まれてくる。

悲惨な事故の中で、親が子を思う気持ちや、携帯電話の持ち主の母親に阪本さんが直接会いに行く姿が描かれており、人と人とのつながりを強く感じさせる資料である。  
(自作資料)



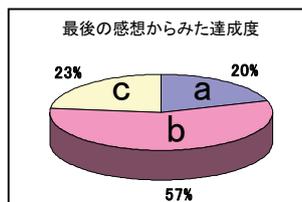
### ◆授業の評価と考察

今回の授業では、ワークシートの記述を5回、生徒に課している。1～4回目の記述では、発表した内容の板書を後で書き加えたのか、自分の考えを記述したのかが不明確であった。よって、自分の考えを書いていると確信できる最後の感想の記述において分類するのが適していると判断した。分類の柱は下記のように設定した。

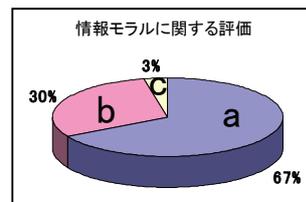
- a : 自分の経験と照らし合わせ、今後の自分の生き方について展望を記述している。
- b : 資料への共感・感想を記述している。
- c : 携帯電話を拾ったから等、端的な視点で記述している。

情報モラルに関する評価については、3回目に課した「直接お母さんに会いに行くときの阪本さんの気持ち」の記述において、メディアの特性、すなわち、メディアを媒介とした間接的なコミュニケーションと対面コミュニケーションとの違いに気付いているかどうかで分類した。そこで、分類の柱を下記のように設定した。

- a : きちんとした理由付けがなされていて、コミュニケーションを取る手段としての携帯電話の特性を理解している。
- b : 理由付けはなされていないが、コミュニケーションの特性を理解している。
- c : 分類できない。



ねらいの達成度は、 $a > b > c$  と評価するのが適当であると考える。このことから77%の生徒がねらいを達成していると言える。



97%の生徒がねらいに到達していると言える。携帯電話の特性に気付いていなかった生徒も、この授業を通して、間接的なコミュニケーションと対面コミュニケーションとの違いについて気付くことができたものと考えられる。

### ◆授業を終えて

今回の授業の主題名「思いやりの心」と情報モラル教育の視点を頭に入れながら大きく次のような発問を行う予定で資料と接していった。

- ① 相手のことを思いやる気持ちを感じさせる発問（携帯電話がかかわるもの）
- ② 直接相手に会って話すことの大切さを感じさせる発問
- ③ 相手のことを思いやる気持ちを感じさせる発問（携帯電話はかかわらないもの）

これは、携帯電話の利便性を認めつつも、人と人が会うことで伝わるものがあること、そして、気持ちのつながりこそが何のものにも代え難い喜びをもたらしてくれることを考えさせたかったからである。③の発問については、最後まで悩んだ。阪本さんと青年が再会した場面で「二人はどんな会話を交わしただろう。」「二人の再会に母親は何を感じただろう。」など考えたが、焦点がぼやけてしまうおそれもあったので、中心発問を「阪本さんと青年が再会できたのはどうしてだろう。」として、お互いを思いやる気持ちに気付かせたいと考えた。

本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 期待される生徒の姿
導入 / 展開 / 終末	1 資料に関する話を聞く。	○ 「救われた気持ち」という資料を用いて、人と人のつながりについて考えてみたいと思います。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ JR 福知山線脱線事故の概要を説明し、事故当日の状況を思い起こさせる。</li> </ul>
	2 資料「救われた気持ち」について考える。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料は読み聞かせを行い途中で発問を行う。</li> </ul>
	(1) 携帯電話の「母さん」という表示を見たときの阪本さんの気持ちを考える。	○ 「母さん」の表示を見たとき、阪本さんは、どんなことを思っただろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持ち主の母親が心配している。</li> <li>・ 事情を説明しなければ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母親が息子の安否を気遣っていることに気づき電話に出ようとした気持ちを考えさせる。</li> </ul> <p>親の気持ちに触れ、電話に出る決心をした阪本さんに共感することができる。</p>
	(2) 母親から携帯電話を使うことを勧められたときの阪本さんの気持ちを考える。	○ 「どうぞ、お使いください。」と言われたとき、阪本さんは、どんなことを思っただろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 勝手に使って申し訳なかった。</li> <li>・ 息子を案じる母親に早く返してあげなければいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 息子の安否を気遣いながら阪本さんへ優しい心配りをみせる母親の思いに気付いたときの気持ちを考えさせる。</li> </ul> <p>人の優しさに触れた阪本さんの思いを感じ取ることができる。</p>
(3) 母親に会いに行くときの阪本さんの気持ちを考える。	☆ 母親に会いに行くとき、阪本さんはどんなことを思っただろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手の目の前で礼を言いたい。</li> <li>・ 直接会った方が伝わりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直接会うことでしか伝わらないものがあることを感じ取らせる。</li> <li>・ 携帯電話を使った間接的なコミュニケーションと対面コミュニケーションとの違いに気付かせる。</li> </ul> <p>会って話したいと思われた阪本さんに共感することができる。</p>	
(4) 人と人を結び付けるものが何であるかを考える。	◎ 阪本さんと青年が再会できたのはどうしてだろう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 阪本さんと母親の気持ちが通じたから。</li> <li>・ 2人が相手のことを考えた行動をとったから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 母親、阪本さんの互いに相手を思う気持ちが2人を再会させたことに気付かせる。</li> </ul> <p>人と人が出会い互いに思いやることのすばらしさを感じ取ることができる。</p>	
3 阪本さんのインタビュー映像を見る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手のことを考えることの大切さを感じ取らせる。</li> </ul>	

救われた気持ち

平成十七年四月二十五日、午前九時二十分、私は、勤務先の大学に行くため、JR福知山線（宝塚線）の三両目の列車に乗っていた。

列車のスピードが上がっていく。女子高校生たちは、「ジェットコースターみたい。」と騒いでいた。そして、あとわずかで尼崎駅に着くというとき、突然、「ゴー。」というけたたましい音が響いた。前の二両目が傾いていく。「あっ、脱線する。」「キヤア。」という悲鳴とともに一瞬おしりが浮き、席から飛ばされた。飛んできた人にもまれるように、ドア付近に倒れた。たくさんの人がのしかかってくる。車輪は進行方向とは逆の方向に回転した。列車が止まってから「痛い。」「助けて。」という声の方々から聞こえてくる。私は、折り重なった乗客の一番下だった。胸が圧迫され身動きが取れなかった。となりを向くと、一人の青年が倒れていた。「大丈夫ですか。」と声を掛けると私にも「大丈夫ですか。」と声を掛けてくれた。

他の車輛の人が、続々と救助のために駆けつけた。私は、三両目のドアのすき間から助け出された。外に出ると、ちょうど私の足下に携帯電話が落ちていた。周りには誰もいなくて持ち主も分からない。私の携帯電話もどこにいったのか分からず、私は、とっさに拾って、勤務先の大学と自宅、それから音楽関係の仲間と連絡をした。事故に巻き込まれ、列車が止まったこと、講義や会合に間に合わないことを伝えた。事故直後であり、相手もこんな大きな事故が起きているとは知らず落ち着いて聞いてくれた。

ある方が「ここにいたら危ないですよ。」と声を掛けてくださった。私は、事故現場を離れようとした。でも、足が動かない。一歩も動かない。近くの会社の方が駆け付け、私を病院に運ぶためライトバンに乗せてくださった。車から身を乗り出し「救急、救急。」と叫びながら私を病院に運んでくださった。病院に行く途中、車の中で、先ほど拾った携帯電話が鳴り出した。何回も何回も電話が鳴った。病院に着いてからも続いた。事故の報道を見て、持ち主のことを心配した電話であろう。でも、私は、一回も電話には出なかった。疲れ切っていて一つ一つに出て返答する元気がなかったからだ。

そんな中、携帯電話に「母さん」の表示が出た。私は、両親に無事を伝えることができたが、この方は連絡が取れない。親の気持ちを考えると、しっかりと説明せねばと思い、電話に出た。出た瞬間、お母さんが、「もし、もし、大丈夫！と叫ばれた。私は、「すみません、実は、列車の事故に遭いました。連絡の方法がなかったのですから、落ちていた携帯電話を拾って使わせてもらいました。」と伝えた。「持ち主は、息子さんですか。娘さんですか。」と尋ねると「息子です。」と答えられた。「あの、息子さんが、今どうなっているか私では分かりません。でも、連絡の手段がなかったもので、申し訳ありませんが、この電話を使わせてもらいました。」と話すとお母さんが、「どうぞ、お使いください。とにかく、それはどうぞ使ってください。」と言ってくれた。ありがたいなと思った。「使ってください。」と言われたその一言で救われた気持ちがあった。私の携帯電話も誰かがそのように使ってくれていたらいなと思った。

病院でのレントゲンの結果、「骨盤が二か所折れている。入院です。」と言われた。使わせてもらった携帯電話はレントゲンに頼んで、その日のうちに持ち主のお母さんにお返しした。

入院から一週間、まったく動くことができなかった。「人は一瞬で死ぬんだ。生をまっとうしなければならぬ。自分の時間をどう使うべきか。」ということの日々、考えるようになった。

事故から約一ヶ月後、まだ、完全に治ってはいなかったがどうにか退院することができた。携帯電話の持ち主のお母さんにお礼を言いたくて、杖をつきながら自宅に伺った。「あのときは、本当にありがとうございました。お母様の一言で救われた気がしました。」息子さんは大学生で大学に行く途中に事故に遭われていた。息子さんは比較的元気な事故当日には家に帰られていた。持ち主の息子さんにも会うことができた。話をしている息子の声を聞いて、「どの辺りに乗っていたらっしゃったんですか。」と尋ねてみた。なぜなら、「大丈夫ですか。」と声を掛け合った青年の声に似ていたからだ。「三両目の前です。」「大丈夫ですか。」と声を掛け合ったのを覚えていますか。「ええ、覚えてます。」「それは、私なんです。」「えっ、そうだったんですか、はつきり覚えてます。」あのときの青年は、大丈夫だろうかと思っていた。その青年に会うことができたのだ。

\*「救われた気持ち」は、ピアニストの阪本朋子さんが遭遇したJR福知山線の脱線事故についてインタビューした内容を資料化したものです。

ワークシート

道徳プリント「救われた気持ち」

年 組 号 氏名

④	③	②	①

# 道徳を通して培う 情報モラル

## 指導資料

研究報告書・資料・指導案等はこちらからダウンロードできます。他の指導資料等もあります。

[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h18/jmoral/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/jmoral/index.htm)

佐賀県教育センターのトップページ

「授業に役立つ実践研究」からどうぞ

### 資料1 異なった意見や立場を大切にする心

#### 道徳

2-(4)  
寛容・謙虚

小学校6年  
「お祭りレポート」



肖像権

異なった立場や意見について考える学習活動を通して、肖像権に気付かせるとともに、相手の立場に立って考える態度を養います。

p.32

### 資料2 オリジナルのパンフレット作りで学ぶ著作権

#### 総合的な学習の時間

小学校6年  
「観光客に地域をアピール」



著作権

集めた資料を使う活動を通して、著作権について考え、相手の立場に立って考えることの大切さや情報を発信する際の責任を学ばせます。

p.33

### 資料3 メールが結んだ真の友情

#### 道徳

2-(3)  
信頼・友情

中学校2年  
「メールの友情」



メール

情報ツールを通してはぐくむことができた真の友情に触れさせ、敬愛の念の大切さを実感させることで、適切な判断力を養います。

p.34

### 資料4 それでもあなたはクリックするの？

#### 特別活動

中学校2年  
「出会い系サイトの危険性」



出会い系サイト

出会い系サイトについて話し合い、問題点に気付かせることで、危険なサイトを利用しない判断力と態度を育てます。

p.35

# 異なった意見や立場を大切に作る心

主題名 異なる気持ち

資料名 「お祭りレポート」

## ◆ねらいとする価値について

内容項目 2-(4) は、広がりや深まりのある人間関係を築くために必要な、謙虚な心と広い心をもった児童を育てようとする内容項目であり、高学年になって初めて出てくる。中学年までは思いやりや友情の内容項目で、相手の気持ちを理解することや互いに信頼し、助け合うことをねらいとしている。

高学年の児童は、活動も多様化し、人間関係も広がってくる。それぞれの立場でそれぞれの考えをもつようになる。そこで、高学年では更に価値を高めて、異なった意見や立場に対しても広い心で対処できるようになることが大切であり、そのことによって和やかな人間関係が築かれると考える。

## ◆情報モラル教育の視点

主人公の私は、仲の良い西岡さんの写真をレポートに載せれば西岡さんも喜ぶであろうと思った。しかし、本人の了解を得ることなく写真を載せる行為は、西岡さんの考えとは違ったものであり、肖像権を守るという立場からも間違った行為であることを知る。

指導に当たっては、異なった立場や意見について考える学習活動の中で肖像権についても触れたい。そのことを通して、肖像権は人権や財産を守るためにあることに気付かせ、情報を発信するときも相手の立場に立って考える態度をはぐくみたいと考える。

## ◆本時のねらい

主人公の気持ちを話し合うことで、自分と異なる意見や立場に対しても広い心で対処しようとする心情を養う。

## ◆本時の展開

◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点 <small>期待される児童の姿</small>
導入	1 友達ともめたことを思い出す。	○ 友達と意見が違ってもめたことはありませんか。	・ どちらにも悪いところはないが意見の食い違いによってもめることもあることを押さえて、価値への方向付けをしたい。
	2 資料を読んで話し合う。 (1) 取材に苦労した私たちの気持ち。	○ 私たちの取材ではどんな苦労がありましたか。 ・ 何度も取材をした。 ・ グループでよく話し合った。	・ 自分たちの経験と重ね合わせて、取材の苦労に共感させる。 ・ その後もグループのみんなが協力し、同じ気持ちであることを押さえる。
	(2) レポートの完成を楽しみにしている私たちの気持ち。	○ レポートの完成を楽しみにしている私はどんな気持ちでしょう。 ・ やっと完成するし、西岡さんも喜んでくれるに違いない。	・ 完成を楽しみにしている私の気持ちに共感させる。 ・ 写真を使うことを喜んでもらえると思っている私の気持ちを押さえ、次の発問につなげる。
	(3) 西岡さんから断りを言われたときの私たちの気持ち。	○ 西岡さんから「写真を使わないで」と言われたとき、みんなはどんな気持ちになったでしょう。 ・ せっかく完成したのに。	・ 西岡さんに対する私を含めたみんなの不満の気持ちに共感させる。 ・ 西岡さんの立場から考えさせ、不満の気持ちを揺さぶり、次の発問につなげる。
	(4) 困ったと思った私の気持ち。 (ワークシート)	◎ ☆ 「どうしよう。困ったな。」と思った私はどんな気持ちだったでしょう。 ・ 今から書きかえたくない。 ・ 喜んでくれると思ったのに。 ・ 勝手に載せたのがいけないのかな。	・ 書かせることで考えを整理させ、不満、反省など多様な考え方を引き出したい。 ・ 著作権の内容に触れている児童を指名し、西岡さんの立場を考えることを押さえる。 「私の気持ちに共感し、ワークシートに書くことができる。」
展開	(5) 先生の話聞いた私の気持ち。	○ 先生の話聞いた私はどんなことを考えたでしょう。 ・ もっと西岡さんのことを考えるべきだった。	・ 西岡さんの考えや立場を思いやった考えでまとめる。
	3 友達と気持ちや意見が違った経験を発表する。	○ 友達と気持ちや意見が違った経験はありませんか。	・ 意見が食い違ってケンカになったことや話し合ってお互いに理解し合った経験を思い出させ、そのときの気持ちを尋ねたい。
終末	4 教師の説話を聞く。	○ 友達と気持ちや意見が違ってもお互いに仲良くできた話です。	・ 自分の気持ちや考え方や違っても、友達の気持ちや考え方も理解でき、今でも仲良くしているという内容の話をする。

## 資料について

本資料は、友達のことを思った行為が、友達の考えとは違っていったという内容の読み物資料である。主人公のグループでは、地域のお祭りのレポートをまとめることになり、お祭りの写真を撮ってきた。その写真の中に主人公の友達の西岡さんの写真があった。その写真をレポートに載せれば、西岡さんも喜ぶのではないかと思い、レポートに採用することにしたが、西岡さんはその写真を使わないでほしいと断ってきた。

写真の取り扱いについて考えることで、異なった意見や立場に対して広い心で対処することを考えさせる内容の自作資料である。

## オリジナルのパンフレット作りで学ぶ著作権

題材名 「観光客に地域をアピール」

## ◆題材について

総合的な学習の時間に限らず、自分たちで調べたことをまとめていく活動を取り入れた学習が増えてきている。直接出向いたり、電話を掛けたり、本を見たり、インターネットで調べたりというように、以前と比べると情報源が多岐にわたっている。また、コピー等の技術が発達し、画像や文章をそのままコピーしてまとめに使う子どもたちも見掛けられるようになってきた。

本題材では、地域のことについて調べたことをパンフレット化し、観光客に配布することを目的としている。相手意識をもたせることで、地域のことをより良く知らせたいという意欲を喚起し、正しい情報を掲載することの大切さを学ばせたい。また、パンフレット化する過程で振り返り活動を取り入れながら、本当にその情報が正しいのか、どうしても載せなければならないものなのか、画像や文章は他では使われていないもののかを考えさせ、情報発信者としての責任について理解させたい。

## ◆本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
導 入	1 前時までの学習を振り返り、これからの学習の流れを知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで情報収集してきたことを振り返り、集めてきた情報を吟味し、さらに情報収集を行うことを確認する。</li> </ul>
	2 本時のめあてを知る。 集めた情報をオリジナルパンフレット作りを生かせるように見直そう。	
展 開	3 オリジナルのパンフレットを作るために大切なことは何かを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合わせ、多くの意見を引き出す。「他と違うこと」や「世界に一つ」等の独自性にかかわることに気付かせたい。また、正しい情報を載せることの大切さにも気付かせたい。</li> <li>初めて聞く言葉なので、声に出させたり、板書したりして抵抗感をなくす。</li> <li>著作物にはどのようなものがあるかを考えさせ、子どもたちの身近な音楽やゲームについても触れるようにする。</li> <li>なぜ、著作権や肖像権というものがあるのかを考えさせることで、作った人の立場や撮ったり描かれたりした人の立場を考えるとすることに気付かせる。</li> <li>集めた情報一つ一つについて、オリジナルパンフレットに使えるかどうかをグループで話し合わせる。もし使えない場合は、他にどんな方法があるかも話し合うようにさせる。</li> <li>子どもたちが安心できるように、今日の学習を経て、再度情報収集の時間を取ることを先に知らせておく。</li> </ul>
	4 著作権と肖像権について知る。	
	5 これまで集めてきた情報を吟味する。	
ま と め	6 全体で話し合い、学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループで話し合ったことを全体で共有することで、次時からの情報収集で気を付けることに結び付けるようにする。</li> <li>各自に振り返りカードを記入させ、次時の意欲へとつなげる。</li> <li>著作権や肖像権について知り、情報を発信する際に気を付けることが理解できたか。</li> </ul>

## ◆情報モラル教育の視点

学校現場では著作権法の例外的措置として授業において著作物を使用することは認められている。しかし、絵画や音楽、作文等の子どもたちの作品にも、著作権があるということを忘れてはならない。それらを使用する際には、許可を得るのがマナーであろう。デジタルカメラを使って撮影した写真を使う際も同様である。著作権や肖像権について考えることで、相手の立場に立って考えることの大切さや、情報を発信する際の責任について学ばせたい。

## ◆本時のねらい

情報を発信する際は責任をもち、著作権や肖像権についても十分配慮することを理解させる。

## ワンポイントアドバイス

他の題材や教科でも、集めた資料をまとめていく活動の際に著作権について学習する機会を設けることができます。

コピーライトワールド(社団法人著作権情報センター)のように、子ども向けコンテンツやクイズ形式等のコンテンツで分かりやすく学習できるサイトがあります。著作権についてあまり詳しくなくても、このようなサイトを利用することも一つの方法です。

また、児童には聞き慣れない著作権という言葉を次のように表すことで、意識付けを図る手立ても考えられます。

- ちよ ちよっと考えよう、使ってもいいかな？
- さく 作文は自分の言葉で書こう
- けん 権利をもっている人の気持ちを考えよう

# メールが結んだ真の友情

主題名 信頼し合える関係

資料名 「メールの友情」

## ◆ねらいとする価値について

人とのかかわりの中で生きていく人間にとって、互いに心を許し合える友達をもつことは必要かつ尊いことである。しかし、真の友情とは互いを認め合い高め合える関係であり、相互の厚い信頼関係によって結ばれていなければならない。とかく己を中心に物事をとらえがちな人間にとって、互いを信頼し合う関係を築いていくことはたやすいことではない。だが、自分の全てを受け入れ、共に高め合おうとしてくれる他者の存在があれば、人はどんな困難にも立ち向かう強い心をもつことができるのである。

情報化社会の進展によって、友達関係の在り方も多様化してきた。面識がない相手とでも友情を結ぶこともできれば、それゆえに思いもかけず人を傷つけ大きな事件に発展することもある。社会が大きく様変わりする中、真の友情を結ぶことの尊さや、そのために必要な心について考えることは意義深いことと考える。

## ◆本時の展開 ◎：中心発問 ☆：情報モラルにかかわる発問

過程	学習活動	主な発問と予想される反応	指導上の留意点「期待される生徒の姿」
導入	1 メールについて考える。	○ メールをすることだけでつながっている友達についてどのようなことを感じますか。 ・ あまり自分のことを話せない感じがする。 ・ 本当の友達にはなれないだろう。	・ 事前にアンケートをとるなどして生徒のメールに関する実態を把握しておく。
展開	2 前時に視聴したDVD「メールの友情」の内容や場面を想起する。	○ 「メールの友情」の映像を見てみましょう。	・ より深く考えるきっかけになるよう適宜映像を見せていく。
	3 「メールの友情」について話し合う。	☆ 本当は、運動ができないのに「今日も野球で大活躍さ。」と嘘のメールを送るジュンはどう思いますか。 ・ 嘘をつくなんて良くないな。 ・ 実際会ったこともないから本当の友達じゃないのだから。	・ 導入で考えたことに反する行為をしているジュンに気付くとともにその行為の裏にある気持ちを考えるきっかけにしたい。
展開	4 主人公の言動の表情にある気持ちを自分に重ね合わせて考える。	○ ジュンは嘘のメールを送っているときどんな気持ちでいると思いますか。 ・ トムにうそをついていることがいつかはばれるのではないか。 ・ 本当は野球ができればこんな嘘をつかなくてもいいのに。 ◎ ジュンはどうして足の手術をブラックジャックに頼みに行ったのでしょうか。 ・ トムに嘘をついていたことを知られたくない。 ・ もし嘘をついていたとトムが知られたら絶交されてしまう。	・ ジュンの置かれている状況や母親から諷されたときの表情に注目させ、友達に嘘をつく辛い気持ちを考えさせる。 「たった一人の友達に嘘をついている辛い気持ちを感じることができる。」 ・ 母親は本人が野球をしたいためだと思っているが、ジュンは友達に自分の嘘を知られたくないために手術を受けたがついてくることに気付かせたい。また、そのことからジュンがこの友情を壊したくないと思っていることを考えさせる。 「野球をしたいからではなく、トムとの友情のために手術を受けたがついてくることに気付く。この友情をどれほど大事にしているか感じることができよう。」
	5 自己を見つける。	○ 自分との友情のためにジュンが危険を冒して足の手術をしようとしたことを知ったとき、トムはどんなことを思ったでしょう。	・ 友情関係が壊れたように思えたが、自分との友情のために手術をしようとしていたことに気付いたという結び付きの強さを感じさせる。 「真の友情を結ぶためには嘘はいけないうえに、深い信頼関係で結ばれていれば嘘を許し合うこともできる尊さに気付くことができる。」
終末	6 教師の話を聞く。	○ 実際トムはジュンにどのようなことをしたでしょう。映像を見てみましょう。	・ 最後のシーンは見せなくても、嘘も許し合えるような深い友情で結ばれたことに感動させたい。 ・ 余韻を残して終わる。

## ◆情報モラル教育の視点

携帯電話も普及し、気軽にメールができる環境にある現在、メールでつながっている友達いわゆる「メル友」という存在が浮かび上がってくる。

「秘密性」というメールの特殊な性質の中でつながっていく人間関係は、危険性も併せもっている。人とつながりたい目的でメールの世界にのめり込んでいくこともあるが、どんなに有り様が変わっても関係を築く上で忘れてはならない敬愛の念がある。また、敬愛の念をもつことで、事情はどうであっても尊い友情関係を結ぶことができるはずである。

情報ツールを通してはぐくむことができた真の友情に触れ、敬愛の念の大切さを実感させることで適切な判断力をはぐくみたい。

## ◆本時のねらい

面識のない友達との間に生まれた真の友情の尊さを理解させることで、信頼関係で結ばれた真の友情をはぐくんでいこうとする心を養う。

## 資料について

本時の資料は、テレビシリーズ「ブラックジャック karte18 メールの友情」を手塚プロダクションの許諾を得て教材として上映した。

野球の試合でホームランを打ち、勝利に貢献したジュンは、その活躍をメル友のトムに伝える。一方、ニュージーランドで大牧場を経営しているトムも、そこで見た美しい光景をジュンにチャットで伝えるのだった。しかし、お互いが伝えていたのは作り話で、ジュンは運動ができない体なのであった。後ろめたさを感じながらもチャットを続けるジュンにトム来日の知らせが入る。嘘を隠すために手術を頼もうとブラックジャックを訪ねるが、費用として1億円を要求される。しかもそこにいたのは・・・。

※ 「メールの友情」を教材として授業で取り扱う場合は、手塚プロダクションの許諾を得ることが必要です。

## それでもあなたはクリックするの？

題材名 「出会い系サイトの危険性」

## ◆題材について

情報モラルに関する実態調査によると、児童生徒の約 25%が何らかの形で携帯電話を持っており、用途については、学年が進むにつれて「友達とのメール」という回答が増える傾向にある。このことから、友達とのコミュニケーションを図る道具として携帯電話が使用されている実態が把握できる。

携帯電話は、事件や事故につながる可能性がある「出会い系サイト」等の閲覧もできるため、未成年者の閲覧を制限するなどの対策も強化されようとしている。高校生になれば、携帯電話の所持率も更に増加すると予想され、中学生のこの時期に携帯電話を利用する上でのルールやマナーを指導する必要があると考え、本題材を設定した。

## ◆情報モラル教育の視点

コンピュータや携帯電話は便利な情報ツールであるが、使用に当たっては、様々な誘惑や有害情報に注意する必要がある。また、教育が対応するスピード以上に情報社会の変化が早く、従来から見られるチャットや掲示板への書き込みの問題に加え、情報流出、出会い系サイトのトラブル等に代表される、情報社会の「闇」が広がっている。将来の社会を担う子どもたちにとって、情報社会を正しく生きる能力は重要な資質になると考える。

## ◆本時のねらい

出会い系サイトの特徴と問題点に気が付かせ、危険なサイトを利用しない判断力と態度を養う。

## ◆本時の展開

■：評価

過程	活動の内容	指導・援助の留意点
活動の開始	1 出会い系サイトに関係した事件の検挙状況を知る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>警察庁サイバー犯罪対策Webサイトに掲載されている資料を用いて検挙状況を確認する。</li> </ul>
	2 本時のめあてを確認する。	
活動の展開	出会い系サイトの特徴と問題点を理解し適切に判断しよう。	
	3 インターネット上の出会い系サイトのシミュレーションを見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルコンテンツ</li> <li>「ネット上のあぶない出会い」 <a href="http://www.cec.or.jp/net-walk/idx/encounter.htm">http://www.cec.or.jp/net-walk/idx/encounter.htm</a> を利用し、スライド1～5を見せる。</li> </ul>
	4 出会い系サイトについて個人で考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>スライド6からの話の続きを予想させ、自分だったら、会うか、会わないか判断させ、その理由も書くようにさせる。</li> </ul>
	5 出会い系サイトについてグループで考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>会った場合の問題点をグループで話し合わせた後、全体で話し合わせる。</li> </ul>
	6 グループごとに発表した後、シミュレーションの続きを見る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの発表後、スライド7までを見せ、似たような経験をしたことがないかなど自由に意見を出させる。</li> </ul>
	7 出会い系サイトにかかわる事件例の読み物資料「それでもあなたはクリックするの？」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読んだ後、事件例の問題点を話し、たとえ相手が親切であっても、安易に会ってはいけないこと理解させる。</li> <li>■ 出会い系サイトの特徴と問題点を指摘できたか。</li> </ul>
	活動のまとめ	8 出会い系サイトの特徴と問題点をまとめる。
9 出会い系サイト規制法を知る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>出会い系サイト規制法を提示し、不適切な書き込みを行っただけで検挙されることを理解させる。</li> <li>■ 出会い系サイト規制法を理解できたか。</li> </ul>

## ワンポイントアドバイス

使用した教材「ネット上のあぶない出会い」は、財団法人コンピュータ能力開発センターWebサイト「ネット社会の歩き方」に掲載されています。ダウンロードして使用することも可能です。

出典：「ネット社会の歩き方」  
(<http://www.cec.or.jp/net-walk/>)

# 児童生徒の情報ツール使用に関する実態調査 及び 考察

研究を進めるに当たって、児童生徒の情報ツール使用に関する実態調査（第1年次・第2年次ともに実施）を行い、情報モラル教育において焦点化すべき内容について検討しました。

## 1 実施対象及び実施期間

### (1) 第1年次 平成17年7～8月

- ① 県内小学校4校 4～6年生  
男子327人 女子274人 計601人
- ② 県内中学校5校 1～3年生  
男子333人 女子304人 計637人

### (2) 第2年次 平成18年6～9月

- ① 県内小学校5校 3～6年生  
男子200人 女子210人 計410人
- ② 県内中学校4校 1～3年生  
男子244人 女子247人 計491人

## 2 結果と考察

実態調査の対象者は、第1年次と第2年次で重複はありませんが、それぞれの調査結果を比較してみると、第1年次と第2年次で大きな差異は認められず、同様の傾向を示しました。よって、第2年次に調査した結果を基に考察を進めることにします。

### (1) 情報ツールの使用について

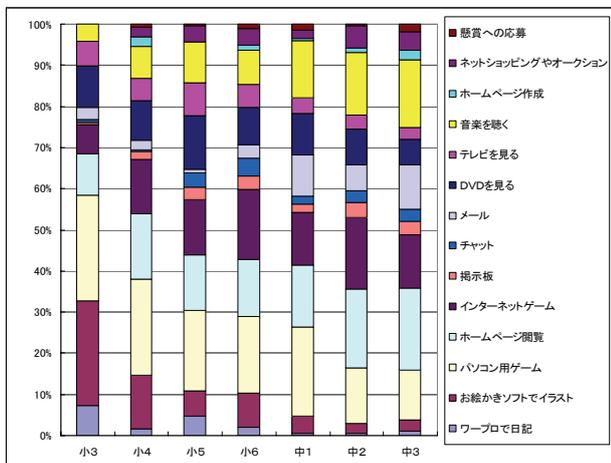


図2 コンピュータの使用

図2では、ゲームやお絵描きだけでなくホームページやDVDを見るなどコンピュータの使い方が多様化していることが分かります。その中で、お絵描きやワープロ、ゲーム等は学年が進むにつれて少なくなり、代わりにメール、掲示板、チャットといった使い方が増えています。このことから、コンピュータの使い方が、コミュニケーションツールとしての使い方に重点が移ってきていることが見て取れます。

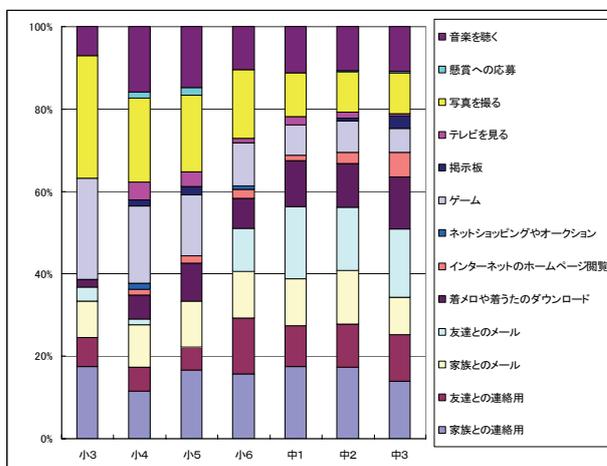


図3 携帯電話の使用

携帯電話についても、図3のように、「家族との連絡用」「家族とのメール」という回答は小学生から中学生まで大きな変化はありませんが、学年が進むにつれて「友達とのメール」という回答が増える傾向にあります。このことは、友達とのコミュニケーションを図る道具として携帯電話を使用している実態が見て取れます。

### (2) 友達への伝達手段について

図4では、小・中学生ともに「直接話す」という回答が多く、対面コミュニケーションが主流であることが分かります。学年が進むにつれて「手紙」の使用が減り、「携帯電話」や「メール」の使用が増えることから、伝達手段が少しずつ変化していく様子が見て取れます。そし

て、「家の電話」の使用が、小学校では学年が進むにつれて増加しますが、中学校では逆に低下することに注目すると、携帯電話の所持率が増えることでコミュニケーションの取り方が個人的になっていくことが推測されます。

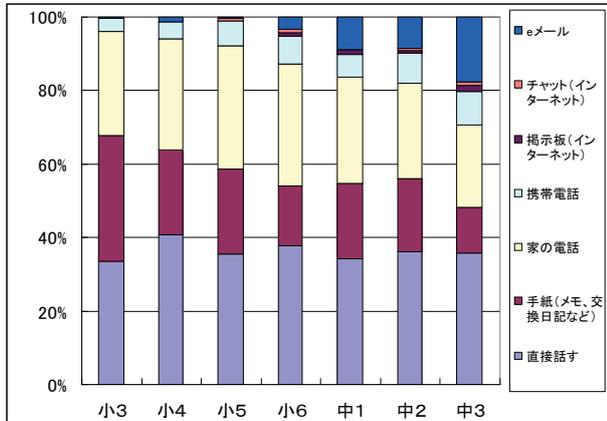


図4 友達への伝達手段

### (3) 悪口を書いたものを見つけたときの行動について

図5では、学年が進むにつれて「Aさんの悪口を同じように書く」という回答が減ることや、高学年では「Aさんに理由を尋ねる」という回答が多いことから、判断力が身に付いていることが見て取れます。

しかし、中学生では学年が進むにつれて「何もしない」「Aさんに連絡し書かないように言う」という回答が減ることや「一人で悩む」と回答した生徒が増えることから、どのような対応をするのが良いのかを自分で判断し解決しようとしていることが推測されます。

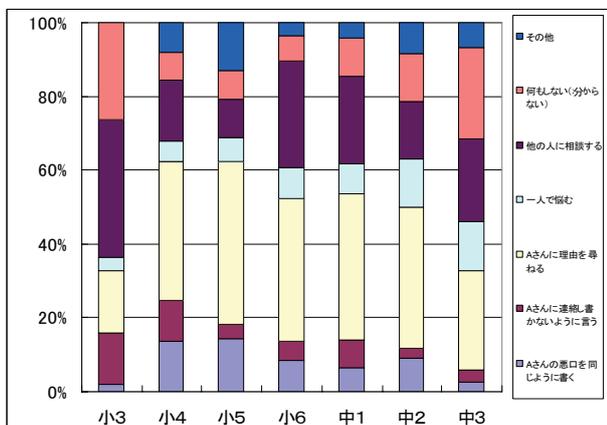


図5 悪口を書いたものを見つけたときの行動

### (4) メール友達への対応について

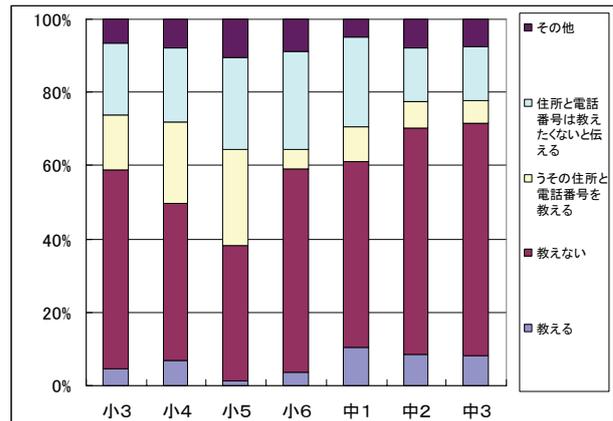


図6 会ったことがないメール友達への対応

図6から、「会ったことがないメール友達に住所を教えない」という回答が大半を占めており、個人情報をもやみに教えてはいけないという情報モラルが身に付いていると言えます。

しかし、小学生では「教えない」の回答の減少とともに「うその住所を教える」という回答が増加しており、情報モラルが身に付き始めながらも正しい判断ができていない様子が見て取れます。対して、中学生では学年が進むにつれて「うその住所を教える」の回答が減少しており、正しい判断ができるようになってきていることが分かります。

また、中学生は小学生と比べて「教える」の回答が多いことは、その相手とより親しくなりたいために、あえて教えようとしているとも考えられ、交際範囲が広がっていることが推測されます。

### (5) アンケートメールへの対応について

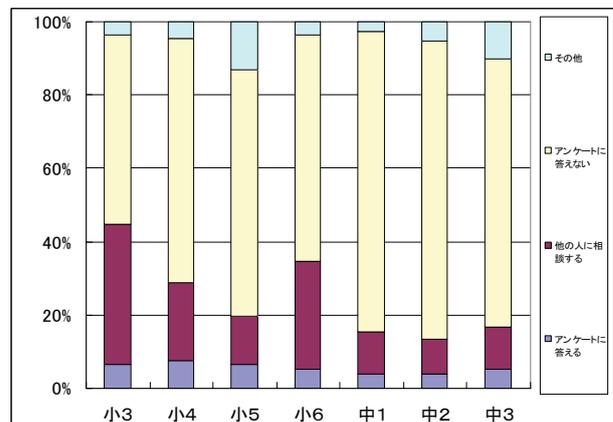


図7 アンケートメールへの対応

「アンケートに答えると豪華賞品がもらえる」というメールへの対応では、図7のように「アンケートに答えない」が大半を占めており常識的な回答結果であると言えます。

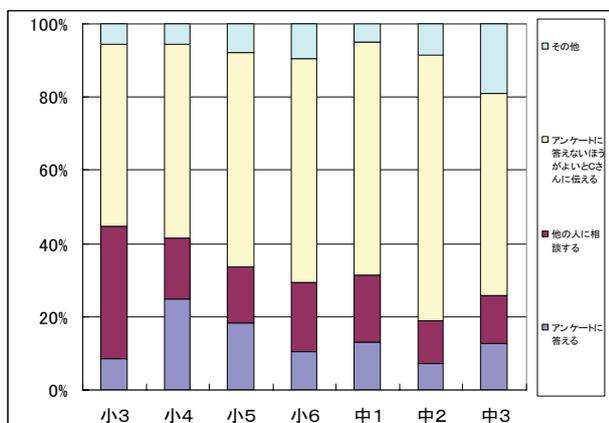


図8 友達から誘われた場合の対応

図8は、豪華賞品がもらえるというアンケートに仲の良い友達から誘われた場合にどのような対応をするのかを聞いた結果です。大半が常識的な回答をしていると言えますが、図7と比較すると、「アンケートに答える」という回答が増えていることから、友達からの誘いに断りきれずに回答してしまうケースが考えられ、賞品の有無にかかわらず友達とのつながりを重視しやすいということが推測されます。

### (6) チェーンメールへの対応について

図9、10は仲の良い友達から「不幸の手紙」や「幸福の手紙」をもらった場合の対応を聞いた結果です。

どちらの場合も学年が進むにつれて「他の人に相談する」という回答が減少し「無視する」という回答が増加しており、情報モラルが身に付いていることが見て取れます。しかし、「幸福の手紙」の場合は、「不幸の手紙」よりも「メールを送る」という回答が多いことから「幸福」と「不幸」の感じ方の違いが影響していると推測されます。

図9の「不幸の手紙」では、小学生と中学生を比較すると、中学生の方が「手紙を送る」という回答が多いことに着目できます。このことは、情報モラルは身に付いているが、面白半分

や好奇心で送ってしまう様子がうかがわれ、知識・理解は身に付いているが、匿名性の高い状況下における判断力が不足しているものと思われれます。

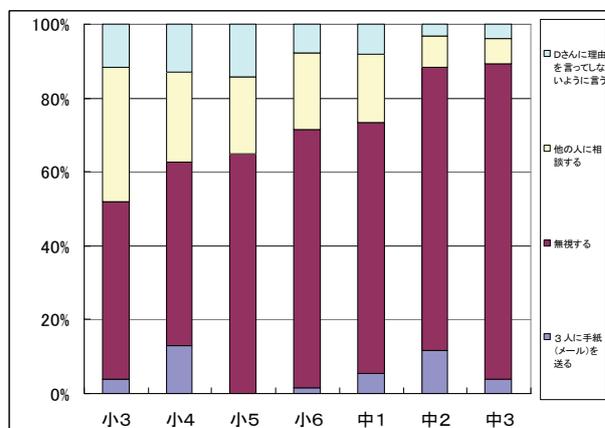


図9 不幸の手紙への対応

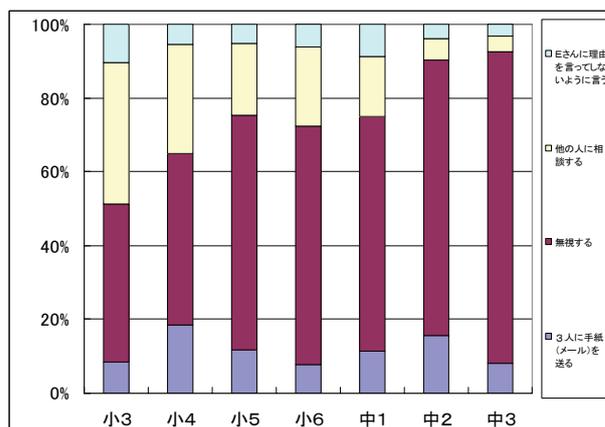


図10 幸福の手紙への対応

### 3 全体考察

調査結果から、年齢が上がるにつれ情報ツールを使ったコミュニケーションの方法が多様化する傾向が見られました。特に小学校高学年を境に多様化すると言えることから、小学校低・中学年では心を耕すことを重視し、将来を見据えた指導を行い、小学校高学年を境に即時的な効果をねらったルールやマナーの指導を重視する必要があると考えられます。

また、全体的に情報モラルについての常識的な回答は見られましたが、匿名性の高い状況になった場合の判断力不足が心配され、児童生徒の道徳的判断力をはぐくむ必要があると思われれます。

## まとめにかえて

人と人とのコミュニケーションには様々な方法があると思います。これからの情報社会で生きていく子どもたちにとっては、情報ツールによるコミュニケーションがますます増えていくことでしょう。コミュニケーションの基本は相手の気持ちになって考えるということです。子どもたちが、情報ツールによるコミュニケーションや対面コミュニケーションのそれぞれの特性を理解し、時と場に応じて適切に活用しながら、豊かな人間関係を築いていくことを期待しています。

最後に、本研究に助成していただきました松下教育研究財団に、心から感謝の意を表します。

佐賀県教育センター

道徳を通して培う情報モラル研究委員会

### 道徳を通して培う情報モラル研究委員会 及び 研究協力校

#### ■ 指導助言者 ■

金光 靖樹（大阪教育大学教育学部 助教授）

#### ■ 平成 18 年度 ■

足立 成美（佐賀県教育センター）

金氏貴世子（佐賀県教育センター）

丹野 到（佐賀県教育センター）

馬場 広城（佐賀県教育センター）

江頭 則男（川副町立南川副小学校 教諭）

大隈 章子（みやき町立中原小学校 教諭）

牟田 速（唐津市立鬼塚小学校 教諭）

中野 勝則（伊万里市立伊万里中学校 教諭）

中村 純一（神崎市立神崎中学校 教諭）

原口 直哉（佐賀市立城北中学校 教諭）

特別協力者

吉村 清美（伊万里市立大川小学校 教頭）

#### ■ 平成 17 年度 ■

大曲美奈子（佐賀県教育センター）

田邊 理（佐賀県教育センター）

國平 剛司（佐賀市立春日北小学校 教諭）

納富 義博（上峰町立上峰小学校 教諭）

#### ■ 授業実践・実態調査実施校 ■

川副町立南川副小学校

みやき町立中原小学校

上峰町立上峰小学校

唐津市立鬼塚小学校

佐賀市立城北中学校

東与賀町立東与賀中学校

神崎市立神崎中学校

伊万里市立伊万里中学校

#### ■ 実態調査実施校 ■

佐賀市立春日北小学校

伊万里市立伊万里小学校

佐賀市立城西中学校

佐賀市立金泉中学校

多久市立東部中学校

参考資料（書籍・Webサイト）

<p>「小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説」 文部科学省 1999 国立印刷局</p> <p>「情報化社会と情報倫理」 辰巳 丈夫 2000 共立出版</p> <p>「情報教育の理論と実践」 林 徳治・宮田 仁 2003 実教出版</p> <p>「ネット時代の心の教育」 向山 洋一・河田 孝文 2004 明治図書</p> <p>「情報モラルを鍛える」 赤堀 侃司 2004 ぎょうせい</p> <p>「ケータイ・リテラシー」 下田 博次 2004 NTT出版</p> <p>「NEW教育とコンピュータ」 石井 清人・横倉 俊夫 2005 学習研究社</p>	<p>「Q&amp;Aで語る情報モラル教育の基礎基本」 野間 俊彦 2005 明治図書</p> <p>「情報モラル教育ハンドブック」 2005 東京書籍</p> <p>「事例で学ぶ Netモラル」 堀田 龍也 2006 三省堂</p> <p>「心理学マニュアル質問紙法」 鎌原 雅彦 1998 北大路書房</p> <p>「情報化への対応」（文部科学省） <a href="http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/main18_a2.htm">http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/main18_a2.htm</a></p> <p>「コンピュータを利用する際のルールやマナー」 （佐賀県教育委員会） <a href="http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kyouiku/kyouiku_index.htm">http://www.pref.saga.lg.jp/at-contents/kyouiku/kyouiku_index.htm</a></p>
--	---

イメージキャラクター



**情報戦隊  
モラルレンジャー**

 <p><b>モラルグリーン@メール</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>メールや手紙の書き方指導</td> </tr> </table>	任務	メールや手紙の書き方指導	 <p><b>モラルブラック@ケータイ</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>ケータイ・リテラシーの普及促進</td> </tr> </table>	任務	ケータイ・リテラシーの普及促進	 <p><b>モラルピンク@情報流出</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>個人情報などの情報流出の監視</td> </tr> </table>	任務	個人情報などの情報流出の監視	 <p><b>モラルブルー@ハート</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>道徳的判断力の育成 Netモラル普及促進</td> </tr> </table>	任務	道徳的判断力の育成 Netモラル普及促進
任務	メールや手紙の書き方指導										
任務	ケータイ・リテラシーの普及促進										
任務	個人情報などの情報流出の監視										
任務	道徳的判断力の育成 Netモラル普及促進										
 <p><b>モラルレッド@掲示板</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>掲示板や不正アクセスの監視、ウィルス駆除</td> </tr> </table>	任務	掲示板や不正アクセスの監視、ウィルス駆除	 <p><b>モラルイエロー@著作権</b></p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">任務</td> <td>違法コピーなど著作権法違反の監視</td> </tr> </table>	任務	違法コピーなど著作権法違反の監視						
任務	掲示板や不正アクセスの監視、ウィルス駆除										
任務	違法コピーなど著作権法違反の監視										

イメージキャラクターは、Webサイトから自由にダウンロードできます。ワークシート等のカットとしてお使いください。  
佐賀県教育センターのトップページ「授業に役立つ実践研究」からどうぞ

# 道徳を通して培う情報モラル Webサイト



[http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu\\_chousa/h18/jmoral/index.htm](http://www.saga-ed.jp/kenkyu/kenkyu_chousa/h18/jmoral/index.htm)



コンピュータや携帯電話の普及とともに情報モラルが問われる場面が子どもたちを取り巻いています。

情報モラルをいかにして身に付けさせるか。小学校から中学校までの系統的な指導計画，具体的な授業実践事例，開発した道徳の教材などを提案します。

発行 佐賀県教育センター 平成 19 年 3 月

〒840-0214 佐賀市大和町大字川上

TEL (0952) 62-5211 (代)

FAX (0952) 62-6404

ホームページアドレス <http://www.saga-ed.jp/>